



茨城県

茨城県景気ウォッチャー調査

(令和6年3月調査分)

《景気の現状判断DI》

	令和5年12月	令和6年3月	前回調査との差
茨城県	51.8	50.9	△0.9
県北地域	51.6	47.8	△3.8
県央地域	54.0	47.9	△6.1
鹿行地域	48.4	52.2	+3.8
県南地域	47.8	48.3	+0.5
県西地域	56.6	57.8	+1.2

《景気の先行き判断DI》

	令和5年12月	令和6年3月	前回調査との差
茨城県	48.6	54.6	+6.0
県北地域	44.7	55.4	+10.7
県央地域	49.0	52.6	+3.6
鹿行地域	51.6	53.9	+2.3
県南地域	42.8	54.4	+11.6
県西地域	54.6	56.8	+2.2

令和6年(2024年)4月25日公表

茨城県政策企画部統計課

目 次

I	調査の概要	1
II	調査結果の概要	3
1	全県の動向	3
	（1）景気の現状判断DI	3
	（2）景気の先行き判断DI	4
2	地域別の動向	5
	（1）景気の現状判断DI	5
	（2）景気の先行き判断DI	8
III	景気の判断コメント	11
1	景気の現状判断コメント	11
2	景気の先行き判断コメント	21
3	その他の意見	31

問合せ先
茨城県統計課企画分析グループ TEL:029-301-2642
公式サイトのURL
[https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/
betsu/bukka/watch/index.html](https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/betsu/bukka/watch/index.html)

I 調査の概要

1 調査の目的

県内の事業所等において経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気動向判断等の基礎資料とする。

2 調査の範囲

(1) 対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市町村は以下のとおりである。

地域	市 町 村
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、大子町
県央地域	水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町、東海村
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
県南地域	土浦市、石岡市、龍ケ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、美浦村、阿見町、河内町、利根町
県西地域	古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、八千代町、五霞町、境町

(2) 調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに50名、計250名を調査客体とする。

業 種 名	具 体 例	県北地域	県央地域	鹿行地域	県南地域	県西地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等	30	30	30	30	30	150
企業関連	農林水産業、製造業、建設業、金融業等	16	16	16	16	16	80
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等	4	4	4	4	4	20
	計	50	50	50	50	50	250

3 有効回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	250 人	232 人	92.8%
県北地域	50 人	46 人	92.0%
県央地域	50 人	48 人	96.0%
鹿行地域	50 人	45 人	90.0%
県南地域	50 人	45 人	90.0%
県西地域	50 人	48 人	96.0%

4 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断 (方向性)
- (2) (1) のコメント (理由)
- (3) 景気の先行きに対する判断 (方向性)
- (4) (3) のコメント (理由)
- (5) その他景気に関する意見 (自由回答)

5 調査月及び調査期間

調査月は6月、9月、12月及び3月の年4回である。令和6年3月調査の調査期間は、令和6年3月1日から20日までである。

6 利用上の注意

- (1) DI (Diffusion Index) は景気の方角性 (景気が上向きか下向きか) をみるものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

※DI(Diffusion Index)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比 (%) に乗じて、景気の方角性をみるための指標 (DI) を算出している。

回答区分	良くなって いる	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪くなって いる
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

- 2 具体例
回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなって いる	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪くなって いる
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は、

良くなって いる	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪くなって いる
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、DI値は、

$$(1点 \times 15.0\%) + (0.75点 \times 27.0\%) + (0.5点 \times 25.0\%) + (0.25点 \times 11.0\%) + (0点 \times 22.0\%) = 50.5 \text{ となる。}$$

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は50 (=0.5点×100%) となることから、50を上回っているときは、景気は上昇局面にあり、50を下回っているときは、景気は下降局面にあるといえる。

II 調査結果の概要

1 全県の動向

(1) 景気の現状判断DI

景気の現状判断DIは50.9となった。令和5年12月調査（以下「前回調査」という。）より0.9ポイント低下したものの、横ばいを表す50を2期連続で上回った。

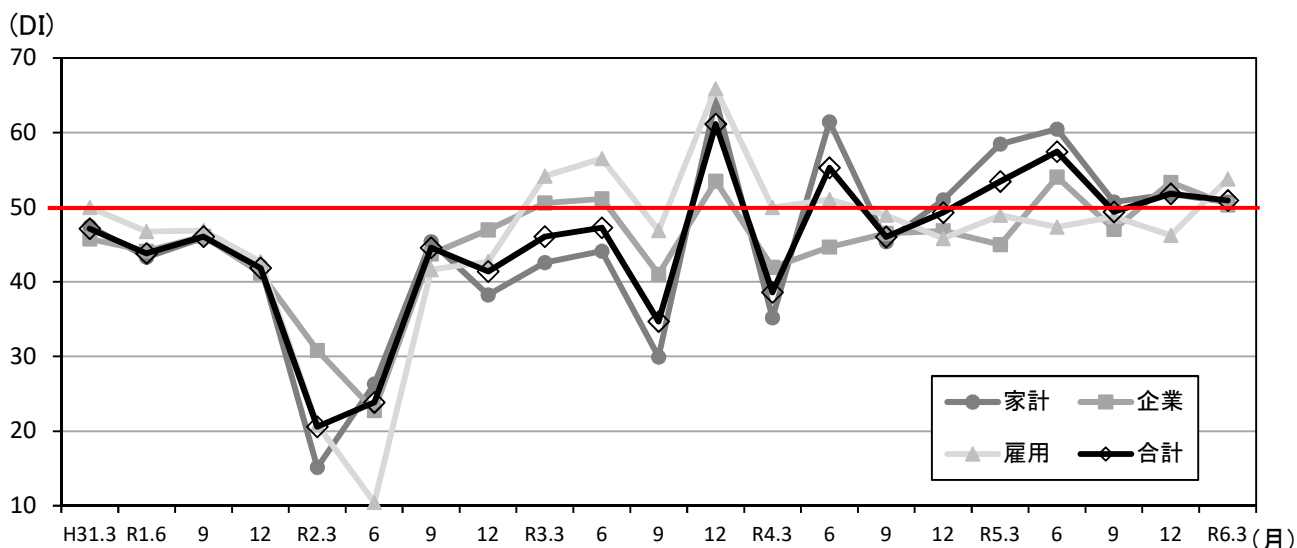
表1-1 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月
合計		53.5	57.5	49.4	51.8	50.9
家計動向関連		58.5	60.5	50.7	51.8	50.7
小売関連		49.6	58.6	47.4	43.9	48.6
飲食関連		68.1	69.4	56.9	64.1	54.4
サービス関連		65.1	59.1	50.8	55.4	49.1
住宅関連		52.8	63.9	59.4	55.6	68.8
企業動向関連		45.0	54.1	47.0	53.3	50.3
農林水産業		28.1	46.9	40.6	50.0	53.6
製造業		46.0	55.9	45.5	53.8	45.0
非製造業		47.7	53.6	50.9	53.7	57.1
雇用関連		48.9	47.4	48.8	46.3	53.8

表1-2 回答構成比

	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月
良くなっている	8.1%	8.7%	2.5%	5.1%	2.6%
やや良くなっている	29.7%	37.8%	25.2%	23.6%	26.3%
変わらない	36.6%	32.0%	44.5%	48.9%	46.1%
やや悪くなっている	19.4%	17.8%	22.7%	18.1%	22.0%
悪くなっている	6.2%	3.7%	5.0%	4.2%	3.0%

図1-1 景気の現状判断DIの推移



(2)景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは54.6となった。前回調査より6.0ポイント上昇し、横ばいを表す50を2期ぶりに上回った。

表1-3 景気の先行き判断DI

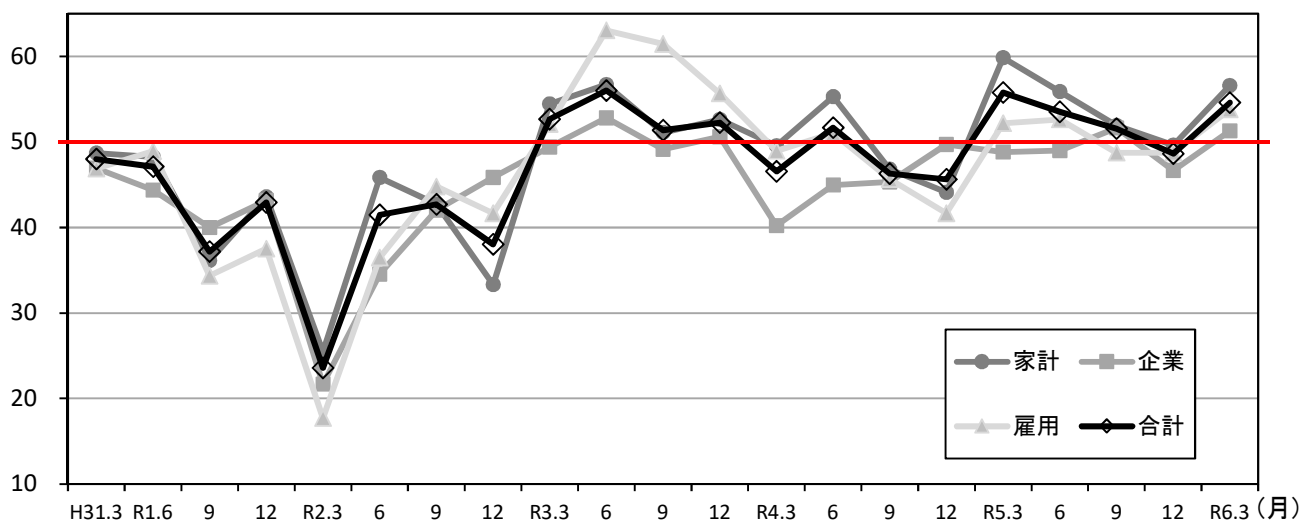
分野	調査年月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月
合計		55.8	53.5	51.6	48.6	54.6
家計動向関連		59.8	55.9	51.9	49.6	56.6
小売関連		54.9	53.0	45.6	46.1	51.8
飲食関連		66.7	65.3	61.1	60.9	63.2
サービス関連		63.7	56.3	54.2	47.9	58.3
住宅関連		52.8	52.8	59.4	63.9	62.5
企業動向関連		48.8	49.0	51.6	46.7	51.3
農林水産業		37.5	43.8	53.1	50.0	50.0
製造業		49.4	50.0	53.2	43.1	49.4
非製造業		50.8	49.1	49.1	50.9	54.5
雇用関連		52.2	52.6	48.8	48.8	53.8

表1-4 回答構成比

	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月
良くなっている	8.4%	5.0%	2.9%	2.5%	2.6%
やや良くなっている	32.6%	27.4%	24.8%	17.3%	29.7%
変わらない	38.1%	46.5%	51.3%	56.1%	52.2%
やや悪くなっている	15.4%	19.1%	17.6%	20.3%	14.7%
悪くなっている	5.5%	2.1%	3.4%	3.8%	0.9%

図1-2 景気の先行き判断DIの推移

(DI)



2 地域別の動向

(1)景気の現状判断DI

① 県北地域

景気の現状判断DIは47.8となった。前回調査より3.8ポイント低下して、横ばいを表す50を2期ぶりに下回った。

表2-1 景気の現状判断DI

調査年月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月
分野					
合計	44.6	58.2	48.9	51.6	47.8
家計動向関連	47.6	60.8	54.5	52.7	48.1
企業動向関連	37.5	55.0	38.3	51.7	43.3
雇用関連	50.0	50.0	50.0	43.8	62.5

表2-2 回答構成比

	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月
良くなっている	0.0%	8.2%	0.0%	2.1%	0.0%
やや良くなっている	21.6%	40.8%	34.0%	29.8%	26.1%
変わらない	45.1%	30.6%	31.9%	42.6%	39.1%
やや悪くなっている	23.5%	16.3%	29.8%	23.4%	34.8%
悪くなっている	9.8%	4.1%	4.3%	2.1%	0.0%

② 県央地域

景気の現状判断DIは47.9となった。前回調査より6.1ポイント低下して、横ばいを表す50を6期ぶりに下回った。

表2-3 景気の現状判断DI

調査年月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月
分野					
合計	59.4	61.2	54.2	54.0	47.9
家計動向関連	64.6	66.7	56.0	55.0	49.1
企業動向関連	50.0	53.3	51.7	56.3	43.8
雇用関連	50.0	50.0	50.0	37.5	56.3

表2-4 回答構成比

	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月
良くなっている	5.4%	6.1%	4.2%	8.0%	6.3%
やや良くなっている	46.4%	46.9%	27.1%	26.0%	16.7%
変わらない	30.4%	32.7%	52.1%	42.0%	45.8%
やや悪くなっている	16.1%	14.3%	14.6%	22.0%	25.0%
悪くなっている	1.8%	0.0%	2.1%	2.0%	0.0%

③ 鹿行地域

景気の現状判断DIは52.2となった。前回調査より3.8ポイント上昇して、横ばいを表す50を3期ぶりに上回った。

表2-5 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月
合計		51.4	55.6	43.6	48.4	52.2
	家計動向関連	50.8	54.3	39.7	44.6	49.1
	企業動向関連	51.5	57.7	50.0	53.6	57.1
	雇用関連	56.3	58.3	50.0	56.3	56.3

表2-6 回答構成比

	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月
良くなっている	7.4%	13.3%	2.1%	2.2%	2.2%
やや良くなっている	27.8%	24.4%	21.3%	19.6%	28.9%
変わらない	35.2%	37.8%	38.3%	54.3%	48.9%
やや悪くなっている	22.2%	20.0%	25.5%	17.4%	15.6%
悪くなっている	7.4%	4.4%	12.8%	6.5%	4.4%

④ 県南地域

景気の現状判断DIは48.3となった。前回調査より0.5ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を2期連続で下回った。

表2-7 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月
合計		51.4	55.1	51.1	47.8	48.3
	家計動向関連	62.5	62.1	52.8	48.1	48.1
	企業動向関連	38.9	50.0	51.6	48.2	50.0
	雇用関連	30.0	25.0	37.5	43.8	43.8

表2-8 回答構成比

	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月
良くなっている	17.0%	10.2%	4.3%	4.4%	2.2%
やや良くなっている	13.2%	32.7%	23.4%	17.8%	17.8%
変わらない	37.7%	30.6%	48.9%	51.1%	53.3%
やや悪くなっている	22.6%	20.4%	19.1%	17.8%	24.4%
悪くなっている	9.4%	6.1%	4.3%	8.9%	2.2%

⑤ 県西地域

景気の現状判断DIは57.8となった。前回調査より1.2ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期連続で上回った。

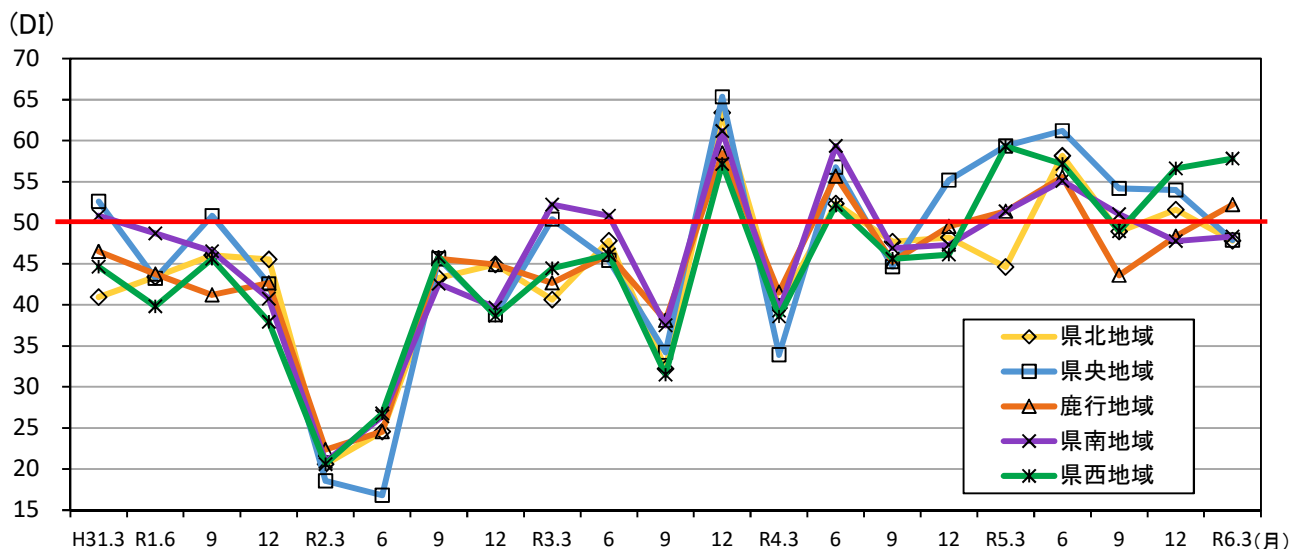
表2-9 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月
合計		59.3	57.1	49.0	56.6	57.8
家計動向関連		65.7	58.3	50.9	57.8	58.6
企業動向関連		47.4	55.0	43.8	56.3	58.3
雇用関連		60.0	56.3	56.3	50.0	50.0

表2-10 回答構成比

	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月
良くなっている	10.2%	6.1%	2.0%	8.2%	2.1%
やや良くなっている	37.3%	42.9%	20.4%	24.5%	41.7%
変わらない	35.6%	28.6%	51.0%	55.1%	43.8%
やや悪くなっている	13.6%	18.4%	24.5%	10.2%	10.4%
悪くなっている	3.4%	4.1%	2.0%	2.0%	2.1%

図2-1 地域別現状判断DIの推移



	H31.3	R1.6	R1.9	R1.12	R2.3	R2.6	R2.9	R2.12	R3.3	R3.6	R3.9	R3.12	R4.3	R4.6	R4.9月	R4.12月	R5.3月	R5.6月	R5.9月	R5.12月	R6.3月
県全体	47.1	43.8	46.1	41.9	20.6	23.8	44.6	41.4	46.1	47.3	34.7	61.2	38.6	55.3	46.0	49.3	53.5	57.5	49.4	51.8	50.9
県北	40.9	43.4	46.1	45.5	20.6	24.6	43.3	44.9	40.8	47.8	32.2	63.4	39.6	52.3	47.7	48.2	44.6	58.2	48.9	51.6	47.8
県中央	52.6	43.2	50.9	42.5	18.5	16.8	45.6	38.8	50.5	45.4	34.2	65.4	33.9	56.8	44.6	55.2	59.4	61.2	54.2	54.0	47.9
鹿行	46.5	43.8	41.2	42.7	22.4	24.6	45.6	44.9	42.7	46.1	38.1	58.5	41.5	55.7	45.3	49.6	51.4	55.6	43.6	48.4	52.2
県南	50.9	48.7	46.6	40.7	20.9	26.4	42.5	39.7	52.2	50.9	37.5	61.2	39.3	59.4	46.9	47.3	51.4	55.1	51.1	47.8	48.3
県西	44.6	39.8	45.6	37.9	20.6	26.8	45.8	38.7	44.4	46.1	31.5	57.1	38.6	52.2	45.6	46.1	59.3	57.1	49.0	56.6	57.8
全国	44.8	44.1	45.6	40.3	13.8	38.4	48.5	36.7	47.3	45.6	43.1	59.2	46.4	51.8	49.5	49.8	52.6	53.2	50.7	51.8	49.8(季節調整値)
	46.7	43.3	45.7	40.7	15.9	38.0	48.7	36.5	49.5	45.4	43.3	58.6	48.9	51.8	49.6	49.0	55.2	53.6	50.4	50.9	52.4(原数値)

(2)景気の先行き判断DI

① 県北地域

景気の先行き判断DIは55.4となった。前回調査より10.7ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期ぶりに上回った。

表2-11 景気の先行き判断DI

分野	調査年月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月
合計		53.9	56.1	50.5	44.7	55.4
	家計動向関連	56.5	60.0	54.5	47.3	58.3
	企業動向関連	50.0	51.7	46.7	40.0	50.0
	雇用関連	50.0	43.8	37.5	43.8	56.3

表2-12 回答構成比

	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月
良くなっている	3.9%	6.1%	2.1%	0.0%	4.3%
やや良くなっている	39.2%	32.7%	31.9%	12.8%	26.1%
変わらない	37.3%	40.8%	36.2%	57.4%	56.5%
やや悪くなっている	7.8%	20.4%	25.5%	25.5%	13.0%
悪くなっている	11.8%	0.0%	4.3%	4.3%	0.0%

② 県央地域

景気の先行き判断DIは52.6となった。前回調査より3.6ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期ぶりに上回った。

表2-13 景気の先行き判断DI

分野	調査年月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月
合計		60.7	56.1	51.6	49.0	52.6
	家計動向関連	63.2	61.7	49.1	50.8	55.4
	企業動向関連	53.3	48.3	56.7	43.8	48.4
	雇用関連	65.0	43.8	50.0	56.3	50.0

表2-14 回答構成比

	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月
良くなっている	7.1%	6.1%	2.1%	2.0%	2.1%
やや良くなっている	42.9%	28.6%	20.8%	20.0%	25.0%
変わらない	37.5%	49.0%	62.5%	52.0%	54.2%
やや悪くなっている	10.7%	16.3%	10.4%	24.0%	18.8%
悪くなっている	1.8%	0.0%	4.2%	2.0%	0.0%

③ 鹿行地域

景気の先行き判断DIは53.9となった。前回調査より2.3ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期連続で上回った。

表2-15 景気の先行き判断DI

調査年月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月
分野					
合計	53.7	51.7	50.0	51.6	53.9
家計動向関連	58.3	51.7	50.0	49.1	55.6
企業動向関連	45.6	48.1	50.0	57.1	51.8
雇用関連	50.0	66.7	50.0	50.0	50.0

表2-16 回答構成比

	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月
良くなっている	13.0%	0.0%	2.1%	2.2%	2.2%
やや良くなっている	16.7%	33.3%	23.4%	19.6%	33.3%
変わらない	46.3%	42.2%	51.1%	63.0%	44.4%
やや悪くなっている	20.4%	22.2%	19.1%	13.0%	17.8%
悪くなっている	3.7%	2.2%	4.3%	2.2%	2.2%

④ 県南地域

景気の先行き判断DIは54.4となった。前回調査より11.6ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期ぶりに上回った。

表2-17 景気の先行き判断DI

調査年月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月
分野					
合計	56.6	51.0	54.3	42.8	54.4
家計動向関連	63.3	55.2	57.4	41.7	52.9
企業動向関連	50.0	43.8	50.0	44.6	56.7
雇用関連	40.0	50.0	50.0	43.8	56.3

表2-18 回答構成比

	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月
良くなっている	13.2%	6.1%	6.4%	4.4%	2.2%
やや良くなっている	32.1%	22.4%	21.3%	8.9%	26.7%
変わらない	30.2%	44.9%	55.3%	48.9%	60.0%
やや悪くなっている	17.0%	22.4%	17.0%	28.9%	8.9%
悪くなっている	7.5%	4.1%	0.0%	8.9%	2.2%

⑤ 県西地域

景気の先行き判断DIは56.8となった。前回調査より2.2ポイント上昇して、横ばいを表す50を5期連続で上回った。

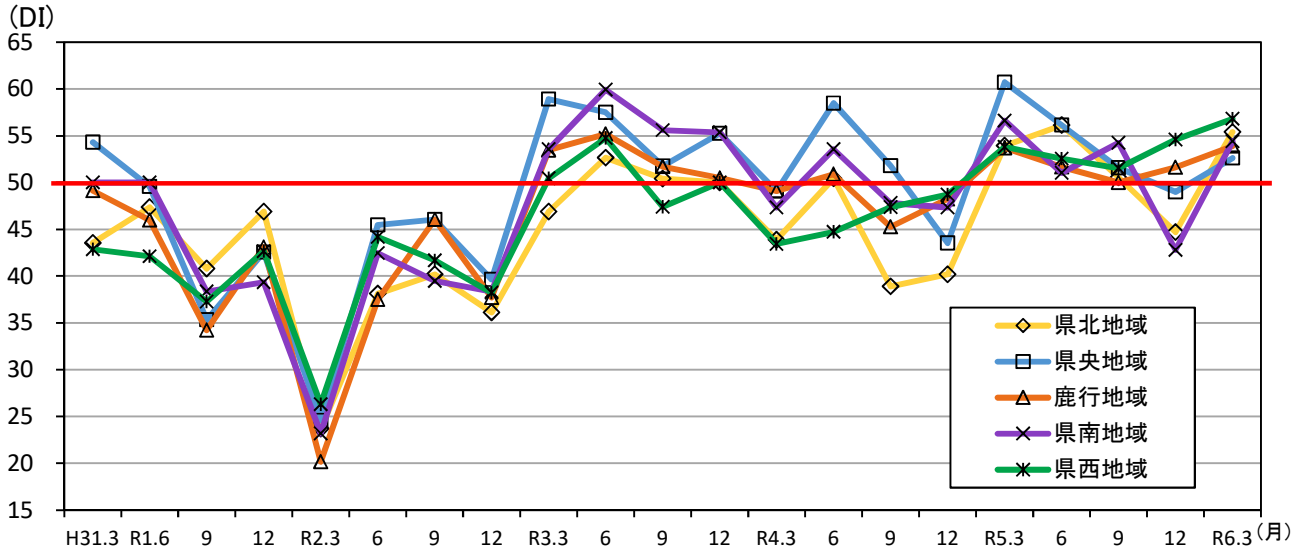
表2-19 景気の先行き判断DI

分野	調査年月	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月
合計		53.8	52.6	51.5	54.6	56.8
家計動向関連		57.9	50.8	49.1	58.6	60.3
企業動向関連		46.1	53.3	54.7	48.4	50.0
雇用関連		55.0	62.5	56.3	50.0	56.3

表2-20 回答構成比

	令和5年 3月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月
良くなっている	5.1%	6.1%	2.0%	4.1%	2.1%
やや良くなっている	32.2%	20.4%	26.5%	24.5%	37.5%
変わらない	39.0%	55.1%	51.0%	59.2%	45.8%
やや悪くなっている	20.3%	14.3%	16.3%	10.2%	14.6%
悪くなっている	3.4%	4.1%	4.1%	2.0%	0.0%

図2-2 地域別先行き判断DIの推移

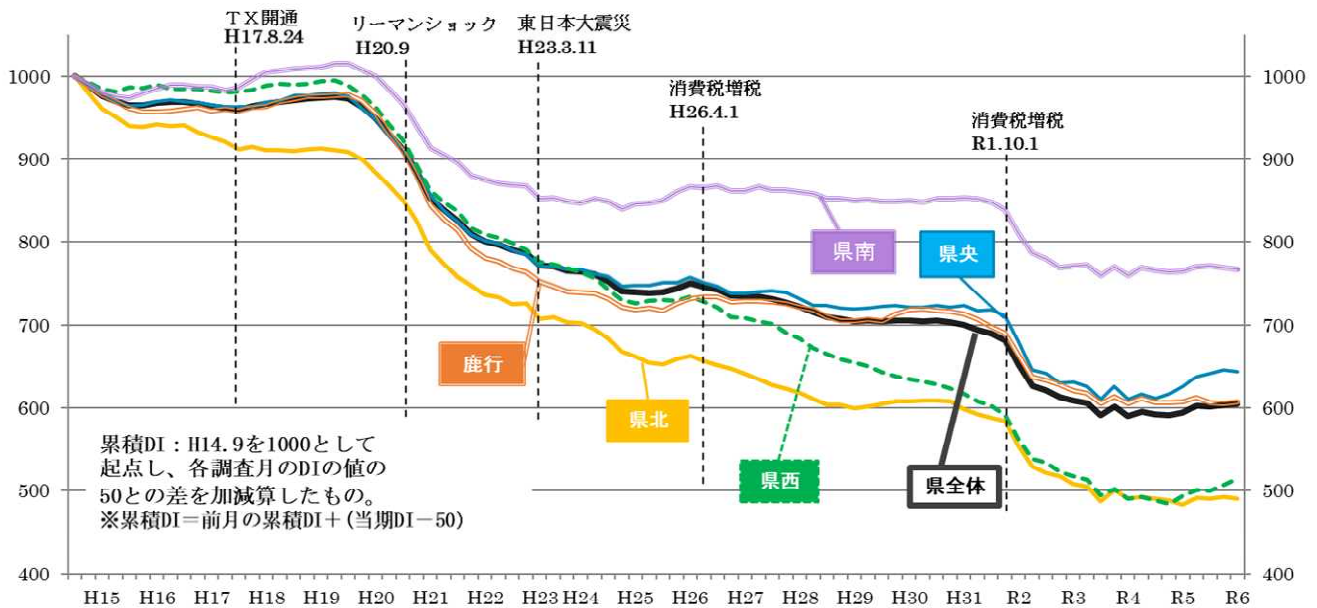


	H31.3	R1.6	R1.9	R1.12	R2.3	R2.6	R2.9	R2.12	R3.3	R3.6	R3.9	R3.12	R4.3	R4.6	R4.9月	R4.12月	R5.3月	R5.6月	R5.9月	R5.12月	R6.3月
県全体	48.0	47.1	37.2	42.9	23.6	41.5	42.7	38.0	52.7	56.0	51.4	52.2	46.6	51.7	46.3	45.6	55.8	53.5	51.6	48.6	54.6
県北	43.5	47.4	40.8	46.9	23.7	38.1	40.2	36.1	47.4	52.6	50.4	50.0	43.9	50.5	38.9	40.2	53.9	56.1	50.5	44.7	55.4
県央	54.3	49.6	35.3	42.5	24.6	45.5	46.1	39.7	58.6	57.5	51.8	55.3	49.1	58.5	51.8	43.5	60.7	56.1	51.6	49.0	52.6
鹿行	49.1	46.0	34.2	43.1	20.2	37.5	46.1	37.7	53.4	55.2	51.7	50.5	49.1	50.9	45.3	48.2	53.7	51.7	50.0	51.6	53.9
県南	50.0	50.0	38.4	39.4	23.2	42.5	39.5	38.4	53.6	59.9	55.6	55.4	47.3	53.6	47.8	47.3	56.6	51.0	54.3	42.8	54.4
県西	42.9	42.1	37.3	42.7	26.3	44.2	41.7	38.2	50.5	54.7	47.4	50.0	43.4	44.7	47.4	48.7	53.8	52.6	51.5	54.6	56.8
全国	48.3 47.9	45.7 46.3	37.0 36.7	45.3 44.5	19.0 18.7	44.1 44.8	47.4 47.1	37.1 36.1	48.6 48.6	51.7 52.6	56.9 56.7	50.8 49.5	48.1 48.4	48.1 49.2	49.6 49.3	47.8 46.3	53.6 54.1	52.4 53.6	50.1 49.7	50.4 48.6	51.2(季節調整値) 51.9(原数値)

(参考) 地域別累積DI

地域別景気ウォッチャー調査累積DI

(H14年9月=1000)



III 景気の判断コメント — 1 景気の状態判断コメント

(1) 県北地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
やや良くなっている	家計	商店街代表者	新型コロナウイルスが収束したこと、インフレに慣れたことにより、やや良くなっていると判断した。
		小売業 (弁当・惣菜店)	能登の震災を受けての景気の後退も心配されたが、景気自体は好調感が出ているのではないかと感じるため、やや良くなっていると判断した。
		小売業 (時計)	一定以上の収入のある客は、少しずつ購入意欲が湧いてきたようだ。客が増加傾向にあるため、やや良くなっていると判断した。
		観光型ホテル	宿泊予約が入るペースがやや早くなっており、旅行の機運が高まっていることが感じられる。また、宴会等の予約も増えてきているため、やや良くなっていると判断した。
		旅行会社	少しずつ活気づいてきているため、やや良くなっていると判断した。
		タクシー会社	人の動きが見られるため、やや良くなっていると判断した。
		ゴルフ場	客数が増え、売上げ見込みも前年対比を上回りそうなため、やや良くなっていると判断した。
	企業	製造業 (精密機械器具)	受注が好調のため、やや良くなっていると判断した。
		不動産業	3月は移動の多い時期ではあるが前年より客数が少ない。だが前年比を考えると、12月よりは少し良くなっていると感じる。
	雇用	公共職業安定所	生産が増え、人員の不足が起きているため、やや良くなっていると判断した。但し、先々を考えると若年者がほしいとのことだ。
学校就業関係者		取引業者等の意見から、やや良くなっていると判断した。	
求人開拓員		3か月前 (12月頃) と比較すると、今回は公務の求人が増え、応募希望者増に繋がっているため、やや良くなっていると判断した。	
変わらない	家計	コンビニエンスストア	特に変化なし
		小売業 (食料品)	客数、売上げとも増えていないため、変わらないと判断した。
		自動車販売店	3か月前と比較すれば売上げは伸びているが、1月から3月は年間の最大需要期であり、毎年繰り返されることである。購入価格、購入車種についても特に景気の良さを感じられるものはないため、変わらないと判断した。
		レストラン	客の動向もほとんど変わりなく、売上げは若干伸びてはいるが、買物点数を見ても大きく増加している感じはないため、変わらないと判断する。
		スナック	3か月前と変わらず、当店も近所の居酒屋もとても暇なので、変わらないと判断した。
		タクシー運転手	大企業の賃上げが決定しているが、中小企業の賃金はまだ上がらない。物価高もあり、客の様子からも変わらないと判断した。

変わらない	家計	レジャー施設	物価高は依然として継続していると感じられる。その原因は、主に人件費及び原材料費の高騰のためであり、今月は主な取引先との契約更改や契約の結び直しがあったが、内容を見てもそう取れるような値上がりがある。しかしながら、マイクロとして見た時に客足の減少は感じられず、企業としての負担が個人に上手く分散していると感じる。また、経理として支払をしているが物価高の上昇幅は落ち着いてきたように感じるため、変わらないと判断した。	
		ゴルフ場	金を使う人、使わない人の差が出てきている。本来なら景気が良くなっていくかと思うが、それらを加味し、変わらないと判断した。	
		設計事務所	仕事内容（新規受注など）に変化がないため、変わらないと判断した。	
	企業	林業関係者	極端に景気に大きな変化は見られないと感じるため、変わらないと判断した。	
		水産業関係者	変化を感じる事はできなかった。	
		製造業（化学工業）	取引先の状況は様々で、増収のところもあれば減収のところもある。総じて評価することが難しいが、「変わらない」と判断するのが妥当かと思う。	
		製造業（電気機械器具）	取引先が多くはない弊社では、新年度（4月以降）の予算を工程表上で確認をしたり、話を聞いたりしているが、その内容からすると、あまり変わらないと判断した。	
		建設業	取引先の方の話から、さほど変化はないという方が多いため、変わらないと判断した。以前より明るさを感じるので上向いているのかもしれない。	
		金融業	物価を始めとした生活に密着する支出の上昇傾向に反し、所得増加が追いついていない状況に変化は見られない。	
		非製造業（その他）	受注量が増えないため、変わらないと判断した。リソース不足（量・質）で受注ができない。	
	やや悪くなっている	家計	スーパー	客の買物カゴの中が少し減っていたり、値引品なども目立ってきている。夜の値引を実施する時間帯の客も急に増えている状況のため、やや悪くなっていると判断した。
			コンビニエンスストア	買上げ点数が減り、買物を少しでも安く済ませたいとの思いからか、低単価商品の販売が好調であるため、やや悪くなっていると判断した。
			衣料品販売店	本年に入り一段と厳しくなっている。天候の関係もあると思うが、来客数が極端に減っているため、やや悪くなっていると判断した。
小売業（酒類）			やや悪くなっていると判断した。自治体の助成によりPayPay利用客に対して20%割引販売を10日ほど実施した時は活気があった。可能であれば1か月ほどやって欲しい。	
日本料理店			日本料理店を経営しているが、1月の臨時休業に加え、スタッフ3名の新型コロナウイルス感染が続き客足が遠のいたのか、能登半島地震の影響か、予約が少なかったため、やや悪くなっていると判断する。	
観光型ホテル			今月は卒業シーズン、異動の時期なので宴会等の食事が多く開催されているが、3か月前と比べると、客数は減少傾向となっているため、やや悪くなっていると判断した。	
ドライブイン			秋の行楽時期に比べて客数が伸びていないため、やや悪くなっていると判断した。	
写真店			来店や問合せ件数、客単価とも昨年より微減傾向のため、やや悪くなっていると判断した。	
美容室			物価高が消費を抑えているため、やや悪くなっていると判断した。	
企業			製造業（食料品）	年末は歳暮等の需要も例年並みで推移していたが、年明け1月、2月は曇り傾向。スーパー等の販売店は低価格帯の商品は動いているが上の価格帯の商品は昨年より厳しい傾向にあるという話をしていたため、やや悪くなっていると判断した。
	製造業（金属製品）	受注が減っているため、やや悪くなっていると判断した。		
	製造業（電気機械器具）	主力製品が第4四半期に入り、多少減産となっているため、やや悪くなっていると判断した。		
	製造業（精密機械器具）	新規受注の話が聞こえなかったり、減産するといったことをよく耳にするため、やや悪くなっていると判断した。		
	製造業（その他）	会社の生産量が落ちているため、やや悪くなっていると判断した。親会社を通して販売する海外顧客への製品販売量が減少していることが原因。円安の今、利益を上げる好機にも関わらずその傾向にはなっていない。中国の減速による影響が大きい。一方、国内では物価の上昇が止まらず、頼みの賃金上昇も手ばかりに止まり、中小企業まで行き渡っていないのが現状。		
	建設業	単純に今年度の売上げを過去と比較して落ちているため、やや悪くなっていると判断した。		
雇用	求人広告	例年、この時期に掲載希望する業種やサービス業からの出稿が少なく、理由を聞くと広告費を削減せざるを得ない状況だというケースが多い。反面、求職者からの応募数は増加傾向にある。景気状況が下降の際は応募が増える事が多いため、やや悪くなっていると判断した。		

(2) 県央地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	日本料理店	売上げが増えてきているため、良くなっていると判断した。観光する人も多くなっている。
		住宅販売会社	2024年に入り、注文住宅では資材の単価が落ち始め全体の価格が下がったことや、住宅ローン金利が上がりそうだという事もあり動き出した客が多いため、良くなっていると判断した。
	企業	運輸業	徐々に顧客製品の出荷台数も増えて来ているため、良くなっていると判断した。
やや良くなっている	家計	小売業	来客数及び売上が増加しているため、やや良くなっていると判断した。家族連れなど複数名での来店も増えている。
		スーパー	前回同様に客単価上昇で供給高の持ち上げに貢献している状況には変わりはないが、値上げ基調の中でも一人当たりの買上げ点数が前年よりも上回る時もあるため、やや良くなっていると判断した。客数も前年を越え、供給高で見ても前年より約5%程度伸長していることも判断の理由の一つ。
		自動車販売店	客からの依頼や購入に関する問合せ、来店数が増加しているため、やや良くなっていると判断した。
		旅行代理店	問合せが多くなったため、やや良くなっていると判断した。
		タクシー運転手	今月の前年比と3か月前の前年比を比べてみると、今月の前年比の伸び率が良くなっている。運賃値上げによる客減りも落ちつき、景気はやや良くなっていると判断した。
	設計事務所	設計技術者単価の見直しに伴い、賃上げを実施できる体力が出来つつあるため、やや良くなっていると判断した。	
雇用	求人広告	賃金の上昇について相談を受けることが増えたため、やや良くなっていると判断した。	
	求人開拓員	当所利用者（求職者）数は減少しているが、求人数も減少傾向であるため、やや良くなっていると判断した。	
変わらない	家計	コンビニエンスストア	3か月前に引き続き客数増加動向が継続しているため、変わらないと判断した。
		農産物直売所	ギフト用商品の売れ筋は低価格帯が続いているため、変わらないと判断した。
		割烹料理店	新型コロナウイルス感染症の影響で自宅飲みが普通になり、店に来店することが少なくなった状態が普通になってしまったため、変わらないと判断した。
		都市型ホテル	歓送迎会の時期になったが全体の予約状況は大きく伸びていないため、変わらないと判断した。1件の予約人数も以前より少なくなっている。
		観光型ホテル	3か月前と変わらないペースで集客が出来ているため、変わらないと判断した。
		バス運転手	通勤や通学等日常の足である路線バスに大きな変化は感じられない。非日常の場面での利用となる高速バス・観光バスは緩やかな回復の途上にあることから、変わらないと判断した。
		レジャー施設	インバウンド需要等ニュースでは取り上げられているが、周辺等の状況を比較しても、変わっていないように感じる。日経平均株価が史上最高値を更新したというニュースが流れたが、一般消費者の反応は、恩恵を受けていないといった声が多かったようだ。
		スーパー銭湯	コロナ禍明けからの回復や値上げなどが一段落し、新規参入なども増えたため横ばいであると判断した。
		ゴルフ場	物価上昇に賃上げが追い付いていない印象のため、変わらないと判断した。
		理・美容店	当店は固定客がほとんどであり客の来店サイクルが大体決まっているので、前年とほぼ同じではないかと思うため、変わらないと判断した。
	写真店	毎回何かしら物価上昇しており、景気が良くなったとは感じないため、変わらないと判断した。	
	企業	農業関係者	株が急上昇したことに伴い、輸入物価が上がり、売上げ的には良くなっているが、状況はそんなに変わらないと思っている。
製造業（金属製品）		現状の受注状況について3か月前は増加を見込んでいたが、実際は横ばいの結果となっているため、変わらないと判断した。	
製造業（一般機械器具）		半導体関連も動きが止まっていて、建設機械の生産調整も続いているため、変わらないと判断した。	

変わらない	企業	製造業（輸送用機械器具）	3か月前と比較しても、引き続き、材料費、輸送費、労務費などの価格転嫁に対応することが困難な状況は大きく変更はないと思われる。また、顧客からの注文についても品質問題などもあり、減産した時期もあったので、良くなっているようには思えない状況が続いている。
		建設業	工事の発注状況等が3か月前と変わらない。
		運輸業（道路貨物運送業）	新規案件の問合せがあまりなく、既存の運送についても伸び悩んでいるため、変わらないと判断した。
		金融業	物価上昇の影響から総体的に利幅が減少している傾向にある。特に建築業界では人材不足もあり着工件数減少が目立っている。公共施設・大型商業施設周辺では人流も回復しているが、一部飲食店・小売店に集中しており景気回復には至っていないため、変わらないと判断した。
		不動産業	分譲マンションについては、問合せ件数・内容共に変化はない。注文住宅については、徐々に問合せ件数が減っている。また、顧客の購入予算は伸びているとはいえないため、変わらないと判断した。
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	顧客からの問合せが少なくなってきたため、やや悪くなっていると判断した。
		酒・各種商品小売業	新型コロナウイルスも落ち着いて昼間の動きは良くなってきていると思うが、夜はコロナ禍の影響がまだに残り、週末だけや昼間だけの飲料店が増えている。飲食店に酒を卸している立場としては厳しい環境であるため、やや悪くなっていると判断した。
		小売業	3か月前（12月）までは前年をやや上回る売上げで推移していたのが、1月になって急に前年を大きく下回り今月になっても前年比はまだ少し下回っているため、やや悪くなっていると判断した。
		楽器販売	日頃動く商品の動きが鈍化。また、高額品の動きは良いのに比べ、低価格品はぱったりと動かなくなった。本格的に学びたいと感じている方は良いものを買われるが、ちょっと始めてみようかという方が減少している印象があるため、やや悪くなっていると判断した。
		観光名所	3か月前と比較して客単価が減少しているため、やや悪くなっていると判断した。
企業	製造業（食料品）	秋の好景気感に比べ、この冬は動きが大人しいため、やや悪くなっていると判断した。	
	製造業（印刷・同関連業）	年度末で繁忙期ではあるが、仕事量・売上げにしても低迷しているため、やや悪くなっていると判断した。	
	製造業（窯業・土石製品）	様々な物が値上がりし、買控えをしている感があるため、やや悪くなっていると判断した。	
	製造業（精密機械器具）	出入りの業者が仕事が減っていると話しているため、やや悪くなっていると判断した。	
	製造業（精密機械器具）	半導体の減速のため、やや悪くなっていると判断した。	
	情報通信業（情報サービス業）	国の賃金アップの施策の割には、自治体の来年度予算の締め付けが厳しかったりして、中小まで届いてこないため、やや悪くなっていると判断した。	
悪	家計	雇用 公共職業安定所	この3か月における管内の有効求人倍率を前年同月比で見た場合、マイナスとなる月が続いている。また、事業主都合の離職者や受給者実人員もこの3か月は増加傾向であるため、やや悪くなっていると判断した。
		コンビニエンスストア	昨年に比べて客数が減少しているため、悪くなっていると判断した。
		割烹料理店	ランチタイムは以前と変わらずバタバタと忙しいが、夜になると客の動きが鈍い。特に酒を飲む客がだいぶ減ったため、悪くなっていると判断した。
		道の駅	売上げ、客数とも如実に下がっているため、悪くなっていると判断した。先行きの不安や、物価高に収入が追い付かないので買控えなどが起きている。

(3) 鹿行地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	農産物直売所	旬物の商品等、取扱商品数も増え、それらを求める客も増えているため、良くなっていると判断した。
やや良くなっている	家計	スーパー	販売価格が上昇する中においても消費者の購買意欲は比較的堅調であるため、やや良くなっていると判断した。特に光熱費や食用油の高騰による調理敬遠を追い風に、惣菜部門は引き続き好調である。
		コンビニエンスストア	買上げ点数が徐々に増加しているため、やや良くなっていると判断した。
		小売業（薬品店）	近くの処方元が発熱外来に注力しているため、発熱外来患者が増えているため、やや良くなっていると判断した。花粉症患者も徐々に増え始めている。慢性疾患患者は変化なし。
		洋食食堂	開店前から並んでくれる客が増えているため、やや良くなっていると判断した。
		観光型ホテル	宿泊者数の増加により、やや良くなっていると判断した。
		ゴルフ場	休日の利用者の需要に変化が見られたため、やや良くなっていると判断した。
		レジャー施設	暖かくなり人の動きが活発になった。イベント行事も多くなり、消費が大きくなってきている。物価高は止まらないが、絶対出費は避けられないので、景気はやや良くなっていると判断した。
	企業	農業関係者	新型コロナウイルスの影響も少なくなってきたおり、農業生産資材や農業機械等の売上げが増加しているため、やや良くなっていると判断した。
		製造業（精密機械器具）	売上げ前年比105%となっているため、やや良くなっていると判断した。
		運輸業（道路貨物運送業）	物流2024年問題により、運賃の値上げをしているため、やや良くなっていると判断した。
		保険業	新型コロナウイルスが終息し、人の動きが出てきて食堂の客が増加しているため、やや良くなっていると判断した。
		サービス業	国内の需要は前期と比較してほぼ同等。一方、海外絡みの案件(特に中国)がやや復活傾向のため、やや良くなっていると判断した。
	雇用	民間職業紹介業	依頼を頂く受注数が増えてきているため、やや良くなっていると判断した。
	変わらない	家計	スーパー
家電販売店			消耗品、必需品の売上げは問題ないが、嗜好品の売上げが伸びていないため、変わらないと判断した。
小売業（菓子類）			3か月前と今月の売上げの前年比がほとんど変わらない。
小売業（食品）			株価は上がっても、消費まで回っていないため、変わらないと判断した。
和食レストラン			物価上昇により価格改定を行ったため、客単価は上昇したが、客数の前年比等には大きな変化がない。
割烹料理店			予約は結構入って来ているが、相変わらずフリーの客は少ないため、変わらないと判断した。
日本料理店			コロナコロナと騒がなくなり、関連のキャンセルも少なくなってきたため、変わらないと判断した。
旅行代理店			旅行需要がないため、変わらないと判断した。
ゴルフ場		価格に対して敏感になっており、少しの料金アップで予約が止まることが多いため、変わらないと判断した。	
企業		製造業（その他）	良さそうな話も悪そうな話も特にない。受注も以前と比較して特に増えても減ってもいないため、変わらないと判断した。
		製造業（食料品）	本年より価格を10%値上げしているが、売上げは前年比100%、販売数量として10%減となっているため、変わらないと判断した。
		製造業（ゴム製品）	客先からのオーダーから変わらないと判断した。
		製造業（鉄鋼業）	特に大きな変化は感じられない。
		建設業	工事の受注額はさほど変わらない。
	金融業	新型コロナウイルスの収束に伴い、個人消費等については回復の兆しは窺えるものの、止まらない物価高騰による諸経費増加は多くの業種に影響を及ぼしており、業況の改善には至っていないものと見られるため、変わらないと判断した。	
	不動産業	良く行く居酒屋では、最近客の来店数が悪いようだ。もう1か所の寿司屋は2月～3月中旬、夜の客の来店数が少ないと言っていた。	

変わらない	雇用	公共職業安定所	求職者は物価が高騰するなか、生計費を確保するために求職活動を始める者が増加してきているが、求人減少傾向は継続しており、景気の足踏み状態が続いているため、変わらないと判断した。
		学校就業関係者	株価は値上がりしているが、物価の上昇に賃金が追いついていない状況であるため、変わらないと判断した。
		求人開拓員	求人数に大きな変化はなく、職種も介護職、運送ドライバー、警備員が継続して多く人材不足である。鹿行地区は若い求職者が少なく、比較的高齢者が多いため製造業者の工場関係事業者は人手不足を訴えている。高校新卒の求人を出してもほとんど埋まらないとのこと。さらに比較的首都圏に近い市町村は若い人は出て行ってしまい、地元に残らないようである。
悪くなっている	家計	商店街代表者	コロナ禍の収束により人の動きが活発になってきたものの、原材料や仕入れ価格の高騰により利益の確保が非常に困難になっている事業所が多く見受けられるため、やや悪くなっていると判断した。
		衣料品販売店	株価上昇のニュースが流れているが、普段の商売、生活をしていても全く実感がないため、やや悪くなっていると判断した。
		小売業	客数は持ち直しているが、客は無駄な購入を控えている。また、仕入単価や物流費の上昇、人件費の上昇など経営には厳しい状況が続いているため、やや悪くなっていると判断した。
		運転代行	売上げの伸び率が低いので、景気はやや悪くなっていると判断した。今までにない低い数字であった。
		タクシー運転手	去年の9月にタクシー料金が値上がりした。料金体系も変わり、売上げは多少なりとも上昇した。その反面、客の財布の紐が固くなったように思う。景気が厳しい状況の中で、値上げだけでは景気は回復はしない。もっと、我々の質を向上させなくては意味がない。
		クリーニング店	売上げの伸びがないため、やや悪くなっていると判断した。
	企業	製造業（金属製品）	円安により国内生産量が減少した。IC関連は、コロナ禍の関係でリモートワークが多く、PC販売が好調であったが、PCはダブつき始め、関連在庫が増え、受注生産量減少。自動車関係はEV車が多くなったため、通常部品は生産にカゲがあるし減産となっているため、やや悪くなっていると判断した。
悪	家計	農産物直売所	売上げも客数も落ちているため、悪くなっていると判断した。
		小売業（書店）	食料品等生活必需品の値上がりのため、趣味への金額はどんどん減っていると思うので、悪くなっていると判断した。

(4) 県南地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	タクシー会社	12月、1月と比べ3月に入ってタクシーの利用も増え、旅行会社の予約も取れなくなっているため、良くなっていると判断した。
やや良くなっている	家計	家電販売店	3か月前の売れ行きと比べると、高額な家電製品、冷蔵庫（大型）、洗濯機（ドラム式）など上位モデルの販売が多くなっている。全体数で多くなっていることはないが、やや良くなっていると判断した。
		小売業（米穀）	インバウンド需要と、若い人達の消費が増えているように思うので、やや良くなっていると判断した。
		ボウリング場	客の流れが若干だが良くなっているため、やや良くなっていると判断した。
		理・美容店	株式投資などで資産が増えた客が、消費に還元しているため、やや良くなっていると判断した。普段ヘアカットだけの客がカラーやパーマなど単価の良いメニューを選択する傾向がある。
		住宅販売会社	株高の影響は一部かと思うが、少しは全体に波及しており、弊社にくる客も若干増えている感があるため、やや良くなっていると判断した。
	企業	製造業（食料品）	小売客に変化は少ないが、業務用の客の1回の注文数が増えていて、頻度も増加している。ガソリンの補助金が出ているので、燃料費が抑えられているため、経費削減に繋がって粗利が見込める。原材料価格の上昇は続いているが、売上額が上向きなので全体で見れば、やや良くなっていると判断した。
		運輸業（倉庫業）	既存の荷主の保管貨物は、種類によって増えたり減ったりしているが、季節的要因を差し引くと微増と行ったところ。ただ、新規荷主からの問合せが増えているため、やや良くなっていると判断した。
		不動産業	客数、契約件数、売上げともに増加傾向になるため、やや良くなっていると判断した。
	変わらない	家計	スーパー
小売業			カテゴリーで好・不調はあるものの、全体の推移は大きな変動はないため、変わらないと判断した。気温の乱高下で主力アパレルは推移ダウン。サービス・アミューズメントの旅行・冠婚葬祭は2桁伸張。
小売業（生花店）			変わる要素がない。
日本料理店			今月と3か月前の前年比を比べると、それほど伸びがないため、変わらないと判断した。
レストラン			客数の上ぶれがあるのは、メディア露出が要因。夕方以降の予約は少ないため、変わらないと判断した。ライフスタイルの変化は定着した感じがする。
都市型ホテル			客との会話などから推測し、あまり変わらない状況にある。
サービスエリア			年末年始のハイシーズンを終え、例年としては閑散期にあたる時期であった1月～2月においても、家族連れや年配の方を中心に一定の利用があった。天候による増減はあったものの、コロナ禍前と比較しても遜色ない売上げを保てたため、変わらないと判断した。
テーマパーク職員			季節的要因を除いて、動向が変わらないと見受けられる。
理・美容店			客の給料が上がらないため、変わらないと判断した。
企業	農業関係者	3月期（初旬まで）の来客数・客単価を前年12月期と比較すると両者とも若干の減少傾向。これは毎年の傾向である。前年同期と比較すると、ほぼ変わりはない。	
	製造業（食料品）	客数、客単価とも変わらない。	
	製造業（飲料）	まだ、感染症（インフルエンザウイルス、新型コロナウイルスなど）のリスクがある中なので、完全に良くなっているとは言えないため、変わらないと判断した。	
	製造業（印刷・同関連業）	受注数や売上げなど大きな変化はない。	
	製造業（窯業・土石製品）	収入と物価に大きな変動がないため、変わらないと判断した。	
	製造業（その他）	リピート品が毎月同じ位の受注が入り、スポット品も何件か毎月入ってくるので、生産量としてみると変わらない。	
	建設業	資材、電線発注も入荷未定に伴い、工事日程遅れ、売上げが減少傾向にあるが、景気は変わらない。今月からメーカーにて発注受けるとのこと。物によっては、納期未定の連絡あり。いつ正常にもどるのか。	

変わらない	企業	金融業	取引先の事業活動は、コロナ禍前の状態に戻った感はあるが、物価上昇や人件費上昇等の影響が続いており、多くの取引先は依然厳しい経営環境にあり、景況感は変わらないと感じた。
		不動産業	不動産賃貸仲介に関しては、継続して県南エリアの入居率向上により空き部屋が少なく、新規での賃貸借契約数が伸び悩んでいるため、変わらないと判断した。
	雇用	民間職業紹介業	顧客受注に変化がない。
		学校就業関係者	この四半期に求人受付はなかったが、例年この時期は就職活動が終期となるため受付件数が少なく、景気判断が難しい。
		求人開拓員	直近のニュースなどで春闘の賃上げとか経営者の賃上げ容認を見ているが、大手先行のニュースばかりで、中小の組合の賃上げの状況がわからない。
	やや悪くなっている	家計	スーパー
スーパー			引続き中小企業の大半はベースアップが進んでいない中、各種コストアップを背景とする物価高は継続しているため、消費の伸び悩みが顕著になってきている。買上げ点数ダウンを補完してきた客単価アップという構造に陰りが出てきているため、やや悪くなっていると判断した。
コンビニエンスストア			物価上昇における消費低迷により、やや悪くなっていると判断した。
農産物直売所			売上げも客数も前年比が落ちているため、やや悪くなっていると判断した。
食堂			道路事情（バイパス）の開通により、フリーの客が少なくなったため、やや悪くなっていると判断した。
都市型ホテル			宿泊団体、地元宴会の売上げが下がっており、厳しい状況。また、昨年は3月末から新入社員研修を実施する客の受け入れがあったが、今年は別の施設で行うとの事。宿泊も（個人旅行）昨年は全国旅行支援があった影響もあり、今年は下がってしまっているため、やや悪くなっていると判断した。3月はスポーツ団体（学生やプロ）の受け入れがあるため、夕食と翌日の朝食付きとなる場合が多く、客単価は上っている。
都市型ホテル			今までが好調だったので、それに比べれば若干悪くなっている。客層の多くは設備、建設関係の会社なので能登半島地震関連でインフラ設備の業者が少なくなったのも影響していると思う。
企業			農業関係者
	製造業（窯業・土石製品）	インフレが進んでいるが、日本では企業の収益や給与に反映されていない。また、銀行からの融資態度に変化はないため、やや悪くなっていると判断した。	
	製造業（非鉄金属）	本年1月までは、メイン取引先より高生産の受注を受けていたが、2月より在庫が適正となったため、減産傾向となった。またメイン取引先において2月に重大な労災事件が発生し、月末5営業日程度の生産停止となり、当社もこれに倣ったため受注は減少した。3月においても生産は部分的に再開したものの、通常までの生産には至っていないため、やや悪くなっていると判断した。	
	雇用	求人広告	物流2024年問題による影響か、各企業が例年に比べ採用しやすいとの声が多い。比較的条件が悪い企業でも採用できていることから、景気は悪化しているのかと思う。
悪	家計	タクシー運転手	売上げが落ちているため、悪くなっていると判断した。

(5) 県西地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	レストラン	平日の客が増えたため、良くなっていると判断する。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	入学シーズン前に学生服、ジャージ類の購入客が増加したため、やや良くなっていると判断した。
		商店街代表者	当店の商品価格も上昇しているが、ユーザーに受け入れられているようだ。また、客単価も上がっているため、やや良くなっていると判断した。
		スーパー	売上げが順調に推移しているため、やや良くなっていると判断した。
		小売業（酒類）	景気が良いというよりは、値上げの前の特需が起きてるのかと思う。
		小売業	趣味に使う金額が増えている感じがするため、やや良くなっていると判断した。
		日本料理店	予約が増え、客単価が上がった。また、8～10人の宴会が増えてきて、来店頻度も上がった。
		和食レストラン	人が集まる事が増えた（学校関係）ため、やや良くなっていると判断した。
		タクシー運転手	やや良くなっていると思うが、運転手不足のため、追いつかない。
		ゴルフ場	シーズ的な要因もあるが、客数が伸びていて、やや良くなっていると判断した。
		商店街代表者	紅葉シーズンから現在まで、商業サービス・観光業界において、事業者の声として「客が徐々に増加した」「旅行へ行ってきた」など、外出する傾向が増加していることが聞こえてくるため、やや良くなっていると判断した。
		設計事務所	融資の計画を実行に移しているため、やや良くなっていると判断した。
		設計事務所	依頼の問合せが多くなっているため、やや良くなっていると判断した。
	企業	農業関係者	管内の畑作地域においては、主力である葉物野菜（レタス・白菜等）の出荷が続いているが、単価がここ数か月前よりやや持ち直し傾向にある。また、出荷量も、大きな自然災害等が発生していないことから、例年より若干増えているため、生産者の手取り収入はやや上向いているので、やや良くなっていると判断した。
製造業（電気機械器具）		製造部門より増員の要望が出てきたため、やや良くなっていると判断した。	
製造業（金属製品）		受注品の中に、やや大口のものが出来たため、やや良くなっていると判断した。	
製造業（金属製品）		2月頃から先月の仕事や見積りなどが増えてきたため、やや良くなっていると判断した。	
製造業（化学工業）		急速な回復の勢いまでは感じられないが、昨年までに比べて受注状況は徐々に良くなってきているため、やや良くなっていると判断した。	
不動産業		事業用物件の動きが良くなっているため、やや良くなっていると判断した。	
サービス業（コンサルタント業）		飲食店の来店客数が増えているようなので、やや良くなっていると判断した。	
雇用	求人広告	前年はもちろんこの数年と比較しても、新卒採用に広告予算を付けたり検討する企業が増えたと感じるので、やや良くなっていると判断した。	
変わらない	家計	コンビニエンスストア	売上げ前年比、客数前年比ともに同水準になっているため、景気の変化は感じられない。
		衣料品販売店	現在は季節的要因による売上げが主なので、一般の販売には変化がない。
		家電販売店	特に客数の変化もあまりなく、来店客の消費行動にも変化は感じない。
		自動車販売店	日経平均株価は上がってきても、実際景気に反映されて来るのは、まだ先だと思う。購買意欲は変わらないと思う。
		農産物直売所	特に大きな変化は見られない。しかし、少しずつ商品の値上げが進んでおり、購入数量が減少している。
		製茶販売	良くなった話をまず聞かない。悪くなったと思わないだけ、まだましだと思う。客も必要な分しか買わない。以前なら、友達の分も買っていかうか、などという声もあったが、しばらく聞いていない。
		食堂	サラリーマンの給料が上がったとか、経営者が給料を上げたなどの話しは全く聞かない。株価が上がってるとは聞くが、とても景気が良くなったとは思えないため、変わらないと判断した。日常会話からは節約に関する言葉ばかりが聞こえる。

変わらない	家計	都市型ホテル	新型コロナウイルスの時よりは良くなっているが、以前には戻らないため、変わらないと判断した。
		道の駅	日銀の金融政策発表によって、消費の様子をうかがうことになりそうだ。
		道の駅	特に景気や周辺環境等に変わりなく、3か月前と変化なし。
		レジャー施設	弊社内、客ともに特に目立つ動きは見られないため、変わらないと判断した。
		理・美容店	今のところ変化は感じられない。
		クリーニング店	外出は増えているようだが、クリーニング需要はそれほど反映しているとは思えないため、変わらないと判断した。
	企業	製造業（食料品）	良くなる要素がないため、変わらないと判断した。
		製造業（窯業・土石製品）	受注状況が回復しないままであり、原材料や荷造り梱包資材、運賃の高騰が進んでいるため、変わらないと判断した。
		製造業（窯業・土石製品）	受注残、収益とも前回の水準と変わっていない。
		製造業（印刷・同関連業）	原材料が値上がりしているが、製品価格に転嫁できていないため、変わらないと判断した。
		金融業	大手企業を中心にベースアップが続いており、人件費増加が予想されるが、県西地区に於いては大半が資金的に給与を上げることが出来ず、予定もしていないとの事。給与が変わらなければ消費が増えずに、景気は変わらないと思われる。
雇用	学校就業関係者	求人企業数は、昨年度より少ないが、就職内定率は良いと思われる。給与も、少しずつ上昇傾向になったように思う。しかし、生活必需品等の物価上昇が止まらないため、生活が良くなったとは思えないので、変わらないと判断した。	
	求人開拓員	物価上昇傾向となっている中で、収入を確保したいのか高年齢者の就職相談が増えてきているように感じている。	
やや悪くなっている	家計	タクシー運転手	電話受付の数、駅からの乗車の数、共に減少しているため、やや悪くなっていると判断した。
		レジャー施設	店頭での購買が若干鈍っている感覚がある。コロナ禍明けの大きな需要の波が、一段落したような気がする。高額品の動きの鈍りがあるため、やや悪くなっていると判断した。
	企業	製造業（電気機械器具）	株価は好調のようだが、各ユーザーからの受注動向は低調に推移しているため、やや悪くなっていると判断した。
		製造業（その他）	受注量が減っているため、やや悪くなっていると判断した。
	雇用	人材派遣業	部分的な繁忙を除くと、多くの取引先で物量が昨年割れしている情報があるため、やや悪くなっていると判断した。
悪	家計	観光型ホテル	季節的な要因。インフルエンザウイルスや新型コロナウイルスの流行がいまだにおさまらず、以前と同様にマスクの着用が必須になってきた。正月の出費で2月は厳しくなっているように思われる。春の様子を感じてきたが、冬に逆戻りしたこの頃、客足も伸び悩んでいるため、悪くなっていると判断した。

Ⅲ 景気の判断コメント — 2 景気の先行き判断コメント

(1) 県北地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	観光型ホテル	個人客の動きも良くなっているが、最近は団体の予約もあるので、今後は景気が良くなると感じる。
		ゴルフ場	現在の様子からは判断が難しいが、株価上昇で気持ち的に上向きになるため、良くなっていると判断する。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	株高によりやや良くなっていると判断する。
		スーパー	1月1日に大型商業施設のパート賃上げがあった。当社でも4月より賃上げするため、やや良くなっていると判断する。
		小売業（弁当・惣菜店）	コロナ禍が明けて久しいが、まだ若干の様子見が窺える。いずれにしても少しずつ戻っているため、やや良くなっていると判断する。
		小売業（時計）	ベースアップ等の流れになってきており期待が出来るため、やや良くなっていると判断する。
		日本料理店	空前の株高で企業の業績が良く、ベースアップが続くこと及び地震の影響も少なくなってくることにより、やや良くなっていると判断する。
		タクシー会社	今後も人の動きがあると思われるため、やや良くなっていると判断する。
		レジャー施設	物価高の上昇幅が落ち着きを見せており、人件費の上昇からも把握できるほど個人の手取りは増えている。そのため支出増が見込めるので緩やかに景気は回復傾向にあると感じる。また、客単価も緩やかではあるが例年に比べ上昇しているため、やや良くなっていると判断する。
		ゴルフ場	希望的観測だが、若干の景気上昇を期待する。年度初めのイベントが控えているため、やや良くなっていると判断する。
	企業	製造業（電気機械器具）	現状より多少の増産傾向にあるため、やや良くなっていると判断する。
		建設業	土地の売買が確定しているため、やや良くなっていると判断する。
		非製造業（その他）	受注量が増えない。リソース不足（量・質）で受注ができない現状が、採用・教育により少しは上昇するため、やや良くなっていると判断する。
雇用	求人開拓員	期が変わって企業からの求人増を予測しているため、3か月後はやや良くなっていると希望する。	
変わらない		小売業（食料品）	良くなっていく様子が見られないため、変わらないと判断する。
		衣料品販売店	皆の給料が上がれば良くなると思うが、地域の住人は年金生活者が多いので、変わらないと判断する。
		自動車販売店	千葉方面で頻発している地震や、物価高騰などマイナスの要因もあり、株価が上がってると言っても実生活で景気の良さを実感できる要素がないため、変わらないと判断する。
		レストラン	状況としては何も変わらないと思っている。ただ、世間的には昇給のタイミングでもあるので、買物点数は伸びるかもしれないが、景気が良くなるとまでは言い難いため、変わらないと判断する。
		スナック	新型コロナウイルスの流行以降、外に出る機会が減った人が多いと感じるため、3か月先も変わらないと判断する。
		観光型ホテル	旅行支援等のキャンペーンもなく、大きく出費をする材料も見当たらないため、当面は横ばいの状態が続くと思われる。
		旅行会社	急な変化はないと思うため、変わらないと判断する。
		タクシー運転手	新型コロナウイルスに対する規制もなくなり、飲食店の動きは良くなっているように思われるが、現状維持が精一杯かと思われるため、変わらないと判断する。
		ドライブイン	物価の上昇にベースアップが追いついていないので客の財布の紐は固く、ガソリン価格も下がらないため、変わらないと判断する。
		ゴルフ場	変化する要素が思い当たらないため、変わらないと判断する。
		写真店	仕入品の物価高傾向が止まらない一方で価格に転嫁をしていきたい面もあるが、なかなか客の動きが思うようでない現状、安易な値上げに踏み切れないところもあるため、変わらないと判断する。
		設計事務所	変わらないと判断する。今のところ仕事内容に変わらないが、新規依頼が取れるよう努力したい。

変わらない	企業	水産業関係者	変化を感じる要因がない。
		製造業（食料品）	この春の賃上げの動向によって変わってくると思うが、今の動向から見ると直近は変わらないと判断する。
		製造業（金属製品）	大手企業自体の受注が少ないため、変わらないと判断する。
		製造業（電気機械器具）	取引先が多くはない弊社では、新年度（4月以降）の予算を工程表上で確認をしたり、話を聞いたりしているが、その内容からすると、あまり変わらないと判断する。
		製造業（精密機械器具）	現在に引き続き、受注が好調のため変わらないと判断する。
		製造業（その他）	劇的に変わるとは思えない。株価の上昇によって勢いづく企業はあると思うがそれは上場企業。中小企業がその恩恵を受ける日が来るのはいつのことか分からないため、変わらないと判断する。
		建設業	変わらないと判断する。このところ見積依頼は増えているので、長期的には良くなる兆しを感じられる。
		金融業	現状を鑑みると、3か月のスパンでは実感できるほどの景気改善は見られないと思うため、変わらないと判断する。
		不動産業	政府は賃上げを掲げているが周囲の様子をみると、変わっていないように感じる。
雇用	求人広告	景気状況だけが要因ではないが、先々の求人状況も大きく改善するような募集計画の話は少ないため、変わらないと判断する。	
	公共職業安定所	生産が増え人員の不足が起きているが、人件費や原材料については、それを支えるだけの原資がない。また、景気が良いとはいえ、単価自体は据え置きであるため、変わらないと判断する。	
	学校就業関係者	取引業者等の意見から、変わらないと判断する。	
やや悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	株価や賃上げの影響は、限定的で景気の底上げに繋がる様子は見られない。物流2024年問題もあり、送料等への影響も懸念されるので、やや悪くなると判断する。
		小売業（酒類）	扱う商品の物価高、そして必要とする商品が品薄、入荷がないなど良くない状況が続くため、やや悪くなっていると判断する。
		美容室	物価高は続くが所得が上がり消費は更に冷え込むため、やや悪くなっていると判断する。
	企業	林業関係者	依然として物価高騰が続き、時期的な要因もあるが需要は低下すると考えるため、やや悪くなっていると判断する。
		製造業（化学工業）	中小企業では会社の実力以上の賃上げを余儀なくされ、マイナス金利解除による利上げが負担となってくる。これらは価格転嫁が難しいため、景気は悪い方向に向かうと思うため、やや悪くなっていると判断する。
		製造業（精密機械器具）	現在の状況が向上するような案件もなく先が見出せないため、やや悪くなっていると判断する。

(2) 県央地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	企業	運輸業	徐々に顧客製品の出荷台数も増えて来ているため、良くなっていると判断する。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	報道で春闘の賃上げ要求の回答が良好だったり、中小企業でも賃上げを実施しているところが多いなどのニュースが出ているので、少しずつ良くなるような気がするため、やや良くなっていると判断する。
		小売業	外出需要の稼働により、消費行動が活発化すると想定。賃上げ等も好要因のため、やや良くなっていると判断する。
		自動車販売店	今後も取引の依頼、購入意向のある客が多いため、やや良くなっていると判断する。
		日本料理店	気温が上がってくると、さらに観光などで人が外出するようになるため、やや良くなっていると判断する。
		割烹料理店	日本の景気が上向きというニュースに期待したいため、やや良くなっていると判断する。
		タクシー運転手	客単価や顧客数も増加傾向にあり、3か月先もこの傾向が続くと思われるので、景気はやや良くなっていると思う。
		ゴルフ場	4月から多くの企業で賃上げとなれば回復傾向になると考えるため、やや良くなっていると判断する。
		理・美容店	6月は比較的忙しいため、やや良くなっていると判断する。
		設計事務所	日経平均が4万円を超え、シニア世代の消費が増えることが見込まれる。また、円安が継続しているためインバウンド消費もさらに拡大が見込まれるため、やや良くなっていると判断する。
		住宅販売会社	住宅の子育て支援の補助金が出るので、良くなっていると思われる。
企業	製造業(食料品)	季節的に人流が回復すると予想するため、やや良くなっていると判断する。	
雇用	求人開拓員	利用者(求職者)数が減少している事と、求人数も減っているため、やや良くなっていると判断する。	
変わらない	家計	スーパー	安売りの広告商品があるときに客数や供給高が伸びる。この傾向を見ていると、今後も景気は変わらないと感じる。
		コンビニエンスストア	5月に、新型コロナウイルス感染症の5類移行から1年経過するが、同様の流れは続くと考えているため、変わらないと判断する。
		酒・各種商品小売業	タクシーも代行も少ない地区では、夜の飲食店が良くなると思えないため、変わらないと判断する。
		小売業	徐々に回復傾向にあり、今後もこのぐらゐの状況で推移していくのではないかとと思われるため、変わらないと判断する。
		楽器販売	客等との会話でも観光等レジャーが盛んである。コロナ禍で我慢していたレジャー消費が収まるまでは、耐久消費財への投資は控えられる気がするため、変わらないと判断する。
		農産物直売所	ギフト果物等、予約問合せの価格が低価格のまま変わらないため、変わらないと判断する。
		割烹料理店	法要や慶事も家族だけになったり家飲みが普通になってしまったので、来客数は増える見込みはないので変わらないと判断する。
		旅行代理店	先が読めないため、変わらないと判断する。
		バス運転手	物価上昇は当面続きそうであり、消費行動が拡大しているとは考えにくいいため、変わらないと判断する。
		道の駅	良いニュースがない。コロナ禍が明けて、インバウンドが増えているはずなのに良くなっていない。3か月後も変わらないと判断する。
		観光名所	3か月先も変わらないと思う。
		レジャー施設	今後も日常生活商品等の値上げのニュースも流れており、現状から上昇していく雰囲気は感じられないため、変わらないと判断する。
		スーパー銭湯	特段、景気を大きく変動する要因が見当たらないため、変わらないと判断する。
写真店	新規の仕事もなくほぼ現状維持のため、変わらないと判断する。		

変わらない	企業	農業関係者	先のことは分からないが、今までと同じだと思うため、変わらないと判断する。
		製造業（窯業・土石製品）	必需品のみ買い、不要なものは極力買控えしていると思うため、変わらないと判断する。
		製造業（金属製品）	今後3か月の計画受注数は増加傾向にあるものの、現状の受注状況が横ばいなので変わらないという判断が妥当と考えている。
		製造業（一般機械器具）	食品や色々な物の物価の上昇に賃金が追いつかず、買控えは続くのではないかと考えるため、変わらないと判断する。
		製造業（輸送用機械器具）	今後の展望についても引き続き、材料費、輸送費、労務費などの価格転嫁に対応するなど短いスパンでの変化は厳しい状況と思われる。やはり、顧客からの増産などが積み重ならないと良くなっていくようには思えない。よって変わらないと判断する。
		製造業（精密機械器具）	先の事は分からないため、変わらないと判断する。
		建設業	競合会社との競争が激しく、需要と供給のバランスが崩れているため、変わらないと判断する。
		金融業	4月以降の賃金上昇等が起因し消費行動が活発化されれば、徐々に景気回復に繋がっていくものと思慮される。しかしながら、中小零細企業の賃金増加は現状の収支圧迫につながる可能性があり、直ちに対応することは困難であることから、3か月では変わらないものと判断する。
		不動産業	物価高の影響により製造原価は上がるものの、中々売価に反映しにくい。一部大企業では、賃金への反映が行われているようだが、地方の企業ではまだまだ賃上げの様子はない。従って、生活防衛意識が進むような気がするため、変わらないと判断する。
雇用	公共職業安定所	令和5年度は前年同月比で、求職者数が増加し求人数が減少する傾向にあったものの、引き続き求人数が求職者数を上回っており、事業主からは人手不足が継続しているとの声を聞くため、変わらないと判断する。当所の調査でも業況の先行きは「普通」とする事業所が約半数を占める。	
	学校就業関係者	大学生の採用については、企業の採用意欲も高い傾向にあり、数か月での影響はないと思われるため、変わらないと判断する。	
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	人手不足、物流2024年問題などにより、資材価格の値上げを通知してくるメーカーが多くなり、経営を圧迫するようになっているため、やや悪くなっていると判断する。
		コンビニエンスストア	プラス要素は考えられないため、やや悪くなっていると判断する。
		都市型ホテル	時期的に総会等の利用が中心となるが開催なしの所もあり、現在の状況を見る限り若干悪くなると予想する。
		観光型ホテル	ゴールデンウィークの受注が弱いため、やや悪くなっていると判断する。
	企業	製造業（印刷・同関連業）	ペーパーレス化が進むなど、市場での動きが感じられないため、やや悪くなっていると判断する。
		建設業	令和6年度上期に入り工事の発注等が増えると思われないため、やや悪くなっていると判断する。
		運輸業（道路貨物運送業）	物流2024年問題によるドライバーの労働時間の規制で高速道路の利用が増えることが予想され、経営を圧迫してくると思われる。また、運びきれない貨物が出てくることで今まで受注していた運送ができなくなり、売上減となってしまうため、やや悪くなっていると判断する。
		情報通信業（情報サービス業）	国の賃金アップの施策の割には、自治体の来年度予算の締め付けが厳しかったりして、中小まで届いてこない流れがまだ続くため、やや悪くなっていると判断する。
	雇用	求人広告	中小企業の収益性が落ちるのではと感ずるため、やや悪くなっていると判断する。

(3) 鹿行地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	農産物直売所	このまま大きな天候不良等がなく、旬物の商品の出荷が増える事となれば、客の来店数も増えると予想されるため、良くなっていると判断した。
やや良くなっている	家計	コンビニエンスストア	外部環境の変化が予測され、客数の増加が見込まれるため、やや良くなっていると判断する。
		小売業（菓子類）	人の動きが活発化しているように感じるし、労働者の賃上げがありそうなので、やや良くなっていると判断する。
		小売業（書店）	PayPayキャンペーンが始まるので売上げの期待があるため、やや良くなっていると判断する。
		洋食食堂	飲食は気軽にできるレジャーとしての位置が高いと思う。新しい客も増えているため、やや良くなっていると判断する。
		日本料理店	周りの給料アップの話など聞いているので、少しは期待している。
		運転代行	多少の人の動きが期待出来るのではないかと思う。また、今月よりは売上げも増加するのではないかと思うので、景気はやや良くなっていると判断する。
		旅行代理店	決算期で旅行の稼働率が良いため、やや良くなっていると判断する。
		レジャー施設	少しずつではあるが良くなると思われる。新年度を迎え消費が増える。
	企業	農業関係者	今年は賃金の上昇が期待され、実質賃金が上昇してくれば、消費者の購買意欲も高まり、農産物の売上げにも貢献できると思われるため、やや良くなっていると判断する。
		製造業（精密機械器具）	新製品の開発依頼、輸出の商談など、前向きな話が複数来ており、悪くなる傾向は感じられないため、やや良くなっていると判断する。
		製造業（鉄鋼業）	物価高騰による賃金改善が進むのではないかと感じているため、やや良くなっていると判断する。
		建設業	日銀の金利政策、積極的な賃金ベースアップが景気の改善に繋がっていると思うので、やや良くなっていると判断する。
		運輸業（道路貨物運送業）	倒産している同業者が多く、仕事が流れてきているので、やや良くなっていると判断する。
雇用	民間職業紹介業	半導体や車関係が動き出してきているので、良くなる予測。	
変わらない	家計	商店街代表者	事業所では、値上がりしている原材料価格を販売価格に転嫁する事が非常に困難な状況である。また、消費者においては実質賃金が減少している事から消費活動にも影響が出ていると思われるため、変わらないと判断する。
		スーパー	直近の2か月（12月は繁忙期であるため除く）は、客数・客単価に大きな変動はなかった。3か月先もこの傾向は続くと思われるので、景気は変わらないと判断する。
		スーパー	単価上昇の恩恵が一巡するため、不安材料があるので、景気は変わらないと判断する。
		家電販売店	現状、客数の増加が見られず、3か月後は見通せない。
		農産物直売所	変わらず悪い。日本人は金がない人が多くなった。
		小売業	引き続き、仕入単価、物流費、人件費などは上昇が続くと思われるので経営は厳しいと思う。一方でコロナ5類となり1年以上が経過し、行動はコロナ禍以前に近づいてきたように感じる。
		和食レストラン	店舗の予約状況等を鑑みても、あまり変化がない。
		割烹料理店	時期的に宴会の予約が多いが、予算的には上がる気配がないため、変わらないと判断する。
		タクシー運転手	現状のままでは、一向に前に進む事は出来ない。生活のために値上げも必要と思うが、根本的に人間性を向上しなければ景気の向上は見込めない。一人、一人考え方を見直して客に喜んでいただける業界にならなければこの先、暗い状況が続くと思う。
		ゴルフ場	予約状況から、変わらないと判断する。

変わらない	家計	ゴルフ場	引き続き物価高の影響を受けて、今と同様の傾向が続くと思ので、変わらないと判断する。	
		住宅販売会社	特に要因がない。株価が最高値になっても反映はないため、変わらないと判断する。	
	企業	製造業（ゴム製品）	客先からの3か月オーダーから変わらないと判断する。	
		製造業（金属製品）	現況の回復は秋頃になると思われる。米国の大統領がどうなるのかで不安要素がある。ヨーロッパの戦争の収束がみられない限り、原材料などの価格は下がらないと思われるため、変わらないと判断する。	
		金融業	依然として止まらない物価高騰により、各社単価の見直し等に苦戦している状況。また、各業界に於いて人員不足も続いており、景気回復には未だ時間を要するものと予想されるため、変わらないと判断する。	
		保険業	前年までは文書での総会が多かったが、今年からは飲食店での総会が増えている。	
		サービス業	国内は現状レベル継続と予想するが、海外情勢は不安定なままである。中国も景気減速の火種を抱えた状態であり、今後、急激に回復する可能性は低いと想定するため、変わらないと判断する。	
	雇用	学校就業関係者	賃金の上昇が追い付いていないこと。特に派遣労働者等の待遇の改善が見込まれないため、変わらないと判断する。	
		求人開拓員	求人数に対し、求職者数が少なく、慢性的な人材不足が3か月で改善できるとは考えにくい。しかも若い人が少ないため、事業者の期待する人材確保は難しく、時給が多少上がっても改善されないと考えられる。65歳以上の年金受給者の求職者が増えているが、景気に変化を与えるものではない。	
	やや悪くなっている	家計	小売業（薬品店）	3か月後は花粉症患者も発熱外来も落ち着き、相対的に患者が減ると思うので、やや悪くなっていると判断する。
観光型ホテル			宿泊予約数が少なくなってきたため、やや悪くなっていると判断する。	
クリーニング店			物価上昇に賃金がついていないため、やや悪くなっていると判断する。	
企業		製造業（その他）	受注が今後減速していきそうな顧客の見通しであるため、やや悪くなっていると判断する。	
		製造業（食料品）	物価の上昇で、可処分所得が上がらない以上、消費に回らないため、やや悪くなっていると判断する。	
		建設業	社員不足により工事エントリーを控えるため、やや悪くなっていると判断する。	
		不動産業	変わらないか、もしくはやや悪くなってくると思う。テナントを建築するため、見積書業者に見積りを取ったら、電気工事が去年の5月と今年の3月、15%~17%も同じ品物が値上がりしていた。時にケーブル等が17%くらい値上がりしている。	
雇用		公共職業安定所	物価の上昇が継続しており、比較的堅調だった産業においても、業務縮小の検討を始める事業所がみられるようになってきているため、やや悪くなっていると判断する。	
悪		家計	衣料品販売店	まだまだ物価が上がっているが、それが売上げ、給料に結びついていない。消費マインドもかなり冷え込んでいるため、悪くなっていると判断する。

(4) 県南地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	タクシー会社	これからもっと人の外出の機会が増えていくと思うので、良くなっていると判断する。
やや良くなっている	家計	家電販売店	現状では売上げ、客数ともに好調な推移を見せているので、今後も景気は良くなっていくのではないかとと思う。
		日本料理店	客単価が多少上がっているため、やや良くなっていると判断する。
		都市型ホテル	訪日外国人（中国）からの問合せがあり、未だ分からない部分も多いようだが、今後、この数年間止まっていた需要が戻ってくる可能性があるため期待したい。
		タクシー運転手	例年、年度が変わると売上げが上向きになるので、やや良くなっていると判断する。
		サービスエリア	現在もバス及び自家用車による観光利用の客で賑わっている。賃金が上昇すれば、GWを中心に観光需要の高まりを期待できるため、全体の数字としては、やや良くなっていると判断する。ただし、物価の上昇も改善されなければ、内訳としては利用の二極化は進むと思われる。
		ボウリング場	新型コロナウイルスやインフルエンザウイルスが落ち着いてくれば、客の動きも良くなってくると思うので、やや良くなっていると判断する。
	企業	製造業（飲料）	各社、決算が発表され、企業の中でも給与を改善するという話をニュースで耳にするため、3か月先は改善されるのではないかとと思うので、やや良くなっていると判断する。
		製造業（印刷・同関連業）	景気を悪化させる材料がもうないように思う（悪材料が出尽くした感）。仕入れコストや光熱費などの上昇はないと聞いている。加えて、株式市場活況のニュースを聞くだけでも今後、地方や小規模事業者への波及が期待できるため、やや良くなっていると判断する。更に長期的な経済成長を繋げていくために、企業も行政も一層の努力が必要に思う。
		製造業（窯業・土石製品）	徐々にインフレに対応した客が増えている印象なので、やや良くなっていると判断する。
		運輸業（倉庫業）	既存の荷主で国内向けの消費が減っていく予測を立てており、海外向けの貨物を増やすとのことなので、景気としては差引きすると変わらないか、料金の値上げにより同じ業務量でも収益が増える環境ができてきており、やや良くなっていると判断する。
		不動産業	コロナ終息から間もなく1年が経つが、以前の状況がほぼ戻ってきたと感じるため、やや良くなっていると判断する。
雇用	求人広告	2024年度に入り、給与を上げようか検討しているとの企業の声をよく聞くため、やや良くなっていると判断する。	
変わらない	家計	スーパー	値上げが続き、単価は上がり、全体的には売上げが増加したように感じるが、客数が減っているのが現状だ。競合も厳しくなり、利益がとりにくくなると思われるため、変わらないと判断する。
		スーパー	引続き中小企業の大半はベースアップが進んでいない中、各種コストアップを背景とする物価高は継続していて、短期的に好転する材料が見当たらないため、変わらないと判断する。むしろ物流問題によりますます物価高が深刻になるのではないかと。
		農産物直売所	前年比の落ち方が一定で変化がないため、変わらないと判断する。
		小売業	今後とも物販は、ネットの台頭や物価の上昇で苦戦が予想される。一方、サービス・アミューズメント・飲食等の体験型消費は好調に推移していくと思われるため、変わらないと判断する。
		小売業（生花店）	新規の要素が見つからないため、変わらないと判断する。
		小売業（米穀）	日銀がマイナス金利政策を解除するなど、金融緩和策を決定したのが大きいと思うので、変わらないと判断する。
食堂	仕入率が上昇しているため、値上げも仕方ないのかなと思う。		

変わらない	家計	レストラン	株、インバウンド等、好景気を感じるニュースと物価高、賃金の増加の遅れといったあまりよくないニュースが混在。二極化の中で、客のターゲットをしぼらないと難しい。
		都市型ホテル	一般客との接客状況を加味し、3か月先では変わらないと思われる。
		都市型ホテル	当分は現状維持の見通しである。昨年末ほど、顧客企業の動きが活発になるような問合せがない。しかし、コロナ禍前のような感じなので、良くはならないが悪くもならない。
		レジャー施設	変化しないと考えられる。
		設計事務所	資材値上がりが、住宅価格の値上りの原因になっている。茨城県の住宅着工数が落ちている。建売専門会社の完成売残りが多くなって、新規着工しない事に原因がある。金利の値上がりもブレーキをかけている。
		住宅販売会社	賃上げは大企業のみで中小企業は難しく、一般家庭の景気が良くなる実感は少ないと思うので、変わらないと判断する。
	企業	農業関係者	店舗来店客の購買意欲については、生活・農業生産に必要な最低限の購入、コストの低い、尚かつ優良な商品を求めていると感じる。また、規模の大きな農家ほど低価格商品へのこだわりも強く感じられ、農産物価格の上昇を求める声が日に日に大きくなってきている。
		農業関係者	今後の景気回復の要素が見当たらないため、変わらないと判断する。
		製造業（食料品）	売上額が今後下がることは考えにくい（堅調を維持していると思う）。経費は工夫して抑えるようにはしているが、特にガソリンの補助金の動向次第では、経営を悪化する方向に振れるのが明白だと思う。売上げの増加と経費の増加を考えると、変わらないと判断する。
		製造業（食料品）	特に景気が大きく変わる様子が見当たらない。
		製造業（窯業・土石製品）	公共工事関連の製造業。先3か月の受注残に大きな変化なし。
		製造業（その他）	リピート品、スポット品と毎月変わらず入ってきているため、変わらないと判断する。
		建設業	今の状態がそのまま続くと思うので、景気は変わらないと思う。
		金融業	物価上昇、人件費上昇に対する価格への転嫁は、取引先の大部分である中小企業にとって簡単ではなく、時間がかかるとの声が多く、変わらないと判断する。
	不動産業	繁忙期から閑散期への移行はあるが、傾向の変化はない。	
	雇用	民間職業紹介業	変わらないと判断する。
		学校就業関係者	求人総数や内定状況が昨年と大きな変化がないことから、今後の景気も大きく変わらないと予想される。
		求人開拓員	最近回った事業所のIT関連企業では、人手不足を背景に賃上げの話題が聞かれるが、中小製造業では、円安による原材料の高騰などで、原資がないと言っていた。
やや悪くなっている	家計	スーパー	人口も減少しているし、今後さらに良くなっていくとは思えないため、やや悪くなっていると判断する。
		コンビニエンスストア	物価上昇、政財界への不信、将来への不安により、やや悪くなっていると判断する。
		テーマパーク職員	価格の高騰により、今後若干の萎縮傾向になる可能性があると感じるため、やや悪くなっていると判断する。
企業	製造業（非鉄金属）	生産のフル稼働となる時期が不透明。また、通期においても在庫充足により減産計画となっており、最悪の場合20%程度の減収となる可能性があるため、やや悪くなっていると判断する。	
悪	家計	衣料品販売店	客の買物の様子を見て、必要な品のみの方が多く、商品を見て「いいねえ」とはいうけど、購入とまではいかないため、悪くなっていると判断する。

(5) 県西地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	道の駅	周辺でお花見イベントや駅のリニューアル等があり、道の駅としては今後需要が高まり、良くなっていると判断する。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	賃金上昇等のニュースを、新聞・テレビで目にするのが多くなり、当店も大幅にベースアップした。消費につながっていくと思うので、やや良くなっていると判断する。
		コンビニエンスストア	4月ごろから企業の賃上げの動きが予測され、3か月後には可処分所得が以前よりは改善する見込みがあるので、やや良くなっていると判断する。
		自動車販売店	株価がその頃には反映されて、購買意欲も高くなると思われる。
		小売業	旅行や映画に行く人が増えたと思うので、やや良くなっていると判断する。
		レストラン	全国的に、給料も増えてきているため、やや良くなっていると判断する。
		日本料理店	人の動きが多少、活発になってきている。新型コロナウイルスやインフルエンザウイルスの影響が薄れてきているため、やや良くなっていると判断する。
		和食レストラン	学校関係のほか、行政関係の集まり、自治会の集まりなど、人が集まる機会が増えるため、やや良くなっていると判断する。
		タクシー運転手	一人当たりの仕事は良くなっていると思うが、運転手不足のため追いつかない。
		タクシー運転手	年度が切り替わると人の動きが出て来ると期待しているため、やや良くなっていると判断する。
		レジャー施設	イベント（公園朝市等）等において、人出（客）が増えてきているため、やや良くなっていると判断する。
		レジャー施設	希望的観測も含め、やや良くなっていると判断する。株価の上昇、賃金の上昇が、好循環の呼び水となるのではないかと。
	設計事務所	依頼の実施が見込まれるため、やや良くなっていると判断する。	
	企業	製造業（化学工業）	回復傾向にあり、需要は現状よりも増えていくと予想される。特に生成AI向けの分野は市場の拡大に期待が持てるため、やや良くなっていると判断する。
金融業		中央経済の資金力が地方の客として売上げに反映すれば、体力的に給与を上げることが出来る事業所も増え、消費拡大が予想されるため、やや良くなっていると判断する。	
不動産業		賃貸物件の賃料が上昇しているため、やや良くなっていると判断する。	
雇用	求人開拓員	大手企業の春闘において満額回答が多くみられ5%超の賃上げ率となる見通しであり、中小企業にも良い影響を与えるという期待が持てる。また、少子化対策などで子育て世代の支援も拡充してきていることから、今後の消費活動が活発になると考えるため、やや良くなっていると判断する。	
変わらない	家計	スーパー	物価上昇もピークアウトし、消費者物価指数も一時より低下していることから、現状が続くと思われるので、変わらないと判断する。
		家電販売店	当店もだが、昨年からの賃金の引き上げはなく、客からは資産運用についての相談が多くなってきていて、消費は期待出来ないため、変わらないと判断する。
		農産物直売所	賃金が上がってから小売業の景気動向に反映されるまでタイムラグがあると思うので、変わらないと判断する。
		製茶販売	何か、良くなる根拠が思い当たらないため、変わらないと判断する。
		食堂	上流階級の人だけが、景気が良くなっているようにしか感じない。普通に生活している人まで景気が良く感じられるのは、まだ暫く先ではないかと思う。
		都市型ホテル	現状が定着してしまうと思うので、変わらないと判断する。
		観光型ホテル	テレビなどでは大型ホテルや旅館の客が増えていると報道されているが、小さな施設では以前とそんなに変わりがないように思える。長い間、家にいることを強いられた人々、年齢層にもよるのかもしれないが、当館の年齢層は高齢者が多いこともあり、あまり客足が伸びているとは思えない。出費を抑えている様子も感じられる。
		道の駅	買物客の品物の単価の動きが読めない。

変わらない	家計	ゴルフ場	3か月先まで予約を開放しているが、あまり予約が入っていない。現状維持に見えるため、変わらないと判断する。
		商店街代表者	現時点での状況が急激に変化するとは思われない。業種によっては、為替相場の影響等により変動が予想され、全体的には、なだらかな状況により回復傾向へ向かうと思われる。
		クリーニング店	今年は暖冬なので、春の繁忙期についてはどうかと試算している。
	企業	農業関係者	今後の青果物価格は不透明であるものの、出荷量は今後数か月、大きな増減はないことが予想されるため、変わらないと判断する。
		製造業（電気機械器具）	向こう3か月は良くなるような情報はなく、変わらないと判断する。
		製造業（電気機械器具）	中・長期的な予測は難しいが、この状況は継続すると見込んでの増員要望であるため、変わらないと判断する。
		製造業（印刷・同関連業）	取引先で、景気の良いところがないため、変わらないと判断する。
		製造業（金属製品）	新分野（医療）の部品が停滞してしまっているが、ロボット関係の部品は概ね順調であり、プラスマイナス0というところであるため、変わらないと判断する。安定感はなく、毎月売上げは大きく変動している。
		建設業	特に変化を感じない。
		サービス業（コンサルタント業）	いまの状態が維持できれば良いし、突出して好転するとも思えないので、変わらないと判断する。
	雇用	求人広告	これまで予算をかけなかったことに予算をかける一方で、その他の部分で取捨選択をしている企業が多いと感じるため、変わらないと判断する。
		人材派遣業	自動車メーカーの5月増産次第だが、期末繁忙も収束し、今後の3か月は現状維持程度になる見通しのため、変わらないと判断する。市内では新倉庫立ち上げの情報もあるので、雇用の面では忙しくなる可能性があると考える。
		学校就業関係者	特段良くなる要因が見られないため、変わらないと判断する。
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	3月を終えると、学生関係の客が減るため、やや悪くなっていると判断する。
		小売業（酒類）	値上げ率があまりにも高すぎて、買控えが起きることは間違いないため、やや悪くなっていると判断する。
		理・美容店	人手不足で忙しそうではあるが、賃金が上昇している話はあまり耳に入っていないため。
	企業	製造業（食料品）	良くなる要素がなく、悪くなる要素しかないため、やや悪くなっていると判断する。
		製造業（窯業・土石製品）	受注状況の回復が見込めず、高騰している原価に対し売価を上げる事が難しいため、やや悪くなっていると判断する。
		製造業（その他）	受注量の増減がない。円安の影響により原価が上昇しているため、やや悪くなっていると判断する。
		製造業（金属製品）	今月の仕事量が多いが、その先は今月の仕事量と比べ横ばいか減る可能性があるため、やや悪くなっていると判断する。

Ⅲ 景気の判断コメント — 3 その他の意見

(1) 県北地域

分野	業種・職種	コメント
家計	スーパー	4月からの商品の値上げでどう変わるか。
	コンビニエンスストア	スーパーなどのタイムセールや値切り販売を待つ方が多く、定価購入への抵抗感があると感じている。また、コロナ禍で我慢していた旅行などに行く方も増えており、普段の生活はより節約志向になっている。
	小売業（弁当・惣菜店）	仕入値などは昨年のような高騰はなくなってきたが、徐々に上がるものも見受けられ、まだまだ仕入れの不安要素がある。また人件費の急激な上昇に対応が十分できないことへの経営不安があげられる。特に人件費の急上昇は価格への転嫁割合が十分できているとはいえず、収益に影響が出ている。また賃金の地域格差が求人求職に影響が出ているのではないかと。
	衣料品販売店	冠婚葬祭が少しずつ行われるようになってきたため期待をしている。
	小売業（酒類）	今後の営業継続は大変厳しい。
	小売業（時計）	同業者がなくなった地域からの流入が少しずつ増加している。
	スナック	観光やレジャー等、家族単位での外出は増えているように感じており、連休は高速道路やショッピングモールは人出が多く、夜の飲食店は客が減る一方のように思う。
	日本料理店	個人的な話だが、長年保有していた株を売り、自動車を買うことにした。
	観光型ホテル	暖かくなり人の動きが活発になると感じるので、自ずと景気は良くなると判断する。
	観光型ホテル	自宅周辺ではカフェや眼鏡店などが新規開業しているが、新規の店舗が開店するペースよりも閉店したり休業してしまうペースの方が早いように感じる。県北地域は土日にも関わらずシャッターが閉まったままの店舗が特に目立つ。
	タクシー運転手	最近になってイベント事が多少増えている。人の動きの起爆剤になってくれれば良いと思う。
	ドライブイン	食料品に関わらず、洗剤にしても薬剤にしても色々な商品が値上げになっていて、かつ、内容量も減っている。消耗品や部品に関しても4月から値上げするところが多い。
	レジャー施設	新NISAが始まり、私の友人、知人も含めて普通預金としていた資産を株式に変えたりと、ほぼ遊休であった資産が景気循環に組み込まれているように感じる。その代わり趣味にお金を使う人が減ったように感じる。映画やカラオケ、漫画喫茶など、コロナ禍前までは平日でも人がいて駐車場も埋まっていたように思えたが、直近では空いている日も多く一部の産業などは斜陽化していると感じる。
	ゴルフ場	インバウンド（韓国）の客が増えている。
	ゴルフ場	客に、値段が上がったんだねと言われることが増えた。
	写真店	高単価の客と少しだけの購入にとどまる客との二極化がより顕著になってきた。
	美容室	普通の人で所得が低い人は安い方に流れるため、田舎ではあまり景気は良くなるまいだろう。
	企業	林業関係者
製造業（食料品）		地元は平成の大合併から20年になる。20年前の合併時の人口は約65,000人、20年後の今は約45,000人。20年で20,000人の人口減少。これでは地域の方が対象の商売は衰退の一途だ。お米の買入れ価格も令和4年産より令和5年産は少々高くなったが、今の買入れ価格では地方の景気は良くならない気がする。
製造業（電気機械器具）		清涼飲料水メーカーより8%以上の価格改定（5/1より）の連絡があった。
製造業（精密機械器具）		日経平均株価が4万円を超えた。この動きが実体経済にどのように影響を与えるのか注視したい。

企業	製造業（精密機械器具）	とにかく物価が高い。公的支援も受けられない（対象外）立場の人間だけが、上がらない賃金で必死に遣り繰りしているイメージ。公平は難しいかもしれないが、子どもがいる世帯や単身世帯などに関係なく誰もが公的支援を受けられる時代を望む。
	製造業（その他）	新型コロナウイルスが沈静化し、やっと通常の生活に戻った。休日や季節の節目には大型店舗や公共施設でもイベントが行われるようになった。人がコロナ禍前に戻ってきたと感じる。今、何よりも元気なのは小規模な商店。各店舗工夫を凝らしながら元気に生き残っていると感じる。
	建設業	建築業についてはインフレの影響と法改正の影響等でなかなか厳しそうな感じで、倒産件数も増えている。
	金融業	株価動向や新NISAに対する関心の高まりを受け、幅広い世代で投資への意識が変化してきていると感じる。
	非製造業（その他）	物価高。
雇用	求人広告	倒産・廃業等のニュースを見聞きする機会がエリア的にも多い。
	公共職業安定所	普段の生活では食品の値上げが相次いで段々と家計も苦しくなっている。

(2) 県央地域

分野	業種・職種	コメント
家計	商店街代表者	商品の値上がりはもちろんだが、物流費など経費もかなり値上がりをしており、仕入コストが実質でコロナ禍前の3~4割増しになってしまっている。売上げは3~4割増しどころかほとんど変わっていないので利益率が大きく下がってしまった。
	商店街代表者	県内にあった資材提供の間屋が倒産する事になった。インターネット等、新しい物流をしっかりと掴まないと淘汰される危機感を感じている。
	小売業	物価上昇による生活防衛的な動きも一部見られる。
	スーパー	競合スーパーの閉店に伴い、多少の客数増の傾向がみられる。
	コンビニエンスストア	茨城空港国内線旅客数2023年度（2023年4月~2024年3月）は過去最多となる65万人規模となる見通し。
	酒・各種商品小売業	県外からの客を呼び込めている所は忙しいと思う。忙しい店では人手が足りなくて困っている。
	農産物直売所	1年前と比べ、売れ筋価格帯が低くなっている。個人の飲食店の買出し客の買上げ金額が減っているように思える。
	割烹料理店	光熱費や仕入代などの高騰が激しすぎるが、客単価の上げ幅はあまりないので経営はすごく厳しい状態が続いている。
	割烹料理店	日経平均株価が過去最高とのニュースだが実感が全くない。一体どこの景気が良くなっているのだろうか。
	観光型ホテル	特徴的な動きはあまり見られない。
	バス運転手	某ドラッグストアの駐車場が、平日の午前中にも関わらず満車に近い状況を見かけた。節約のために折込チラシの商品目当ての人が多かったのだろう。
	タクシー運転手	市内の商店街が色々なイベントを企画してくれているおかげで、以前よりも活気づいている感じはする。ぜひ、これを継続してほしいと思う。
	道の駅	観光地や有名どころには外国人が押し寄せているが、当社は日本人、それも年金暮らしの人を対象に商売しているので景気は悪い。
	スーパー銭湯	温浴施設の新規開業が全国的にも増えた。しかし、今まであった大型化ではなく、新しいスタイルでの運営店舗が増え、時代の変化を感じる。
	写真店	大きな会社では少しずつ景気回復が現れるかもしれないが、自営業では今後も厳しい状態が続きそうだ。
設計事務所	モノの値段が上がり続けているが、以前に比べると抵抗感がなくなっている。	
企業	製造業(食料品)	支払いが滞る得意先が出やすい状況が続いている。
	製造業(印刷・同関連業)	株価の上昇、賃上げなど景気の良い報道を聞くが、実感が無い。
	製造業(金属製品)	自動車業界として、昨年後半は電動車需要増の世界的傾向からハイブリッド車向け部品の減産があったが、近々では世界的なハイブリッド車の評価が変わったことで減産になった部品の需要が戻ってきている。今後もこの傾向が続くと予想している。
	製造業(一般機械器具)	賃上げ率5.28%は中小企業では難しいが、人材の確保と従業員の生活を守るため賃上げを行う。
	製造業(精密機械器具)	普段は買物をしないが、東京に出張した際、スーパーでは価格が安い気がした。
	建設業	給与の値上げについて話題に上がっている。大手は月額30万円等の初任給を打ち出しているが、これが中小企業等へどのように展開されるかで変わってくると思う。
	建設業	茨城空港関係は、観光、ビジネスの需要を生かして高利用率が続いているので、地元景気を引っ張っていく存在になって欲しい。

企業	運輸業（道路貨物運送業）	ドライバーの時間外労働の規制により、中長距離の輸送をお願いしていた協力会社に対応エリアを狭める傾向が出てきている。長距離輸送が出来なくなることで運送を分割するために中継を行い、リードタイムが延びて発注側への負担が強いられると予想される。輸送費が商品単価に転嫁されて物価上昇の引き金になる恐れがある。
	金融業	中心市街地と観光地を一体化した街づくり施策により、観光事業の整備が活発化してきている。
	情報通信業（情報サービス業）	人材不足からくる大手の給与底上げが顕著で、追従できない中小との格差が広がりそうだ。
雇用	公共職業安定所	前年度と比較し、早期退職優遇制度の適用や経営難による廃業の取り扱いが増加した。業況に与える影響として、「原材料・原油・光熱費の高騰」、「人手不足」、「賃上げ・人件費」を挙げる事業所が多い。

(3) 鹿行地域

分野	業種・職種	コメント
家計	衣料品販売店	公務員や大手企業に勤めている人以外は、本当に生活が厳しい。身近な学校保護者間などでも格差が大きくなってきている。
	農産物直売所	貧富の差を店でも相当感じるようになった。客単価の差も大きくなっている。景気が良くなる雰囲気を感じない。
	小売業（薬品店）	飲食店やショッピングセンターなど、コロナ禍前に戻ってきているように感じる。
	小売業（書店）	PayPayキャンペーン開催。
	洋食食堂	ここ数年TV局の取材が続いている。我々の気づかない茨城県の魅力をTV局が見つけている。もっと茨城県は自信を持つことが大事だと思う。
	割烹料理店	株価がすごく高値のようだが、経済的には実感するようなことがない。
	日本料理店	まだまだ値上げの話をしているので、値上げが大きくなると経営にも営業にも影響が出そうだ。
	運転代行	物価高で日常生活に大きな影響を受けている。景気が良くなれば、解決するのだろうか？景気が良くなることを願っている。
	タクシー運転手	どこを見ても厳しい状況は変わらない。町・市の活性化にしてもわかるように、景気が良くなる要素が見つからない。信頼の有る会社、人間性の向上、景気に左右されない会社作りに力を注がなければ、夢みたいかな。
	ゴルフ場	休日の使い方など変化がみられる。団体は旅行や観光に、個人でゴルフを利用する方が増えた。
	レジャー施設	イベントを開催しても大勢の人が集まるようになった。コロナ禍が落ち着き、人の動きが更に多くなった。
住宅販売会社	取引先の会社が倒産する。	
企業	農業関係者	最近、健康ブームで芋の消費が伸びており、焼き芋や干し芋の売上げが年々増加している。
	製造業（その他）	日経平均などの影響などは特になく、静かなものである。
	製造業（食料品）	行事には金を使うが、その他は消費が少ない。
	製造業（精密機械器具）	高級な寿司屋が混んできたのを見て、景気は回復傾向と思われる。
	製造業（金属製品）	日本、アメリカのストックマーケット、価格はどんどん上昇しているが、先行き不透明である。マーケットや先進国の働きによって、大幅な経済変化あり。
	建設業	能登地方の震災があって復興に対する意識が向上した。全企業のうち、たった0.3%しか占めない大企業のベースアップ。まるで全企業がそうであるかのように勘違いしてしまうマスコミ報道に異議あり。
	建設業	下請け業者の人員不足によって、経費が増えている。新卒採用強化のために賃上げを実施予定。
	運輸業（道路貨物運送業）	鉄鋼メーカーの影響なのか朝のラッシュ時に車が減って来た。
	金融業	2025年3月、鉄鋼メーカーの高炉2基のうち1基が廃止されることに伴い、多くの企業や3,000人以上の従業員への影響が懸念されており、運転・設備資金の需要が減少している。
	保険業	茨城県産紅はるかの干し芋がおいしくて人気が出ていて、農家もほくほくだ。
不動産業	今年も建築関係は、1回～2回くらい値上りすると思う。	
雇用	求人開拓員	鉄鋼メーカーの高炉廃止が決まり、配置転換計画から漏れたスキルを持った人に対する求人を期待している事業者が非常に多い。その対象者の動きが注目されるが、今のところ目立った動きはないようである。

(4) 県南地域

分野	業種・職種	コメント
家計	家電販売店	例年と比べて、新生活の客が多くなっていると感じる。
	コンビニエンスストア	低価格のものがよく売れている。一人当たりの買上げ点数が減少している。
	小売業	物価高騰の影響を受け、商品単価が上がっており、客単価は上昇傾向にある。一方、買上げ客数は減少傾向にある。施設として、買上げ客数を上げるための集客施策、購買施策、魅力ある品揃え・サービス等の告知を強化し、来客、購買して頂く施策を講じる必要があると感じている。
	小売業（生花店）	土浦駅極近隣の商業地域内に老人ホームができた。隣地がパブ・スナックまた、その近隣に数棟からなるアパートが建設中であるとの情報から、土浦駅周辺は、商業地域から住宅地に変貌しようとしているように見える。
	小売業（米穀）	相変わらず人手不足は解消されていない。某チェーン店では、会社で交通費の他に高速道路代金も支払うようになったという。県西や県南への通勤が、東京都内からになったらしい。会社も経費が大変だ。
	食堂	新型コロナウイルスが5類になり、少しずつグループ（10名前後）の客が増えてきた。
	レストラン	三世代のお出かけが復活。体調不良、発熱、新型コロナウイルス等でのキャンセル（景気以外要因）がある。
	都市型ホテル	株価が上がっているが、生活には直接影響がない。食品などの値上げに連動して給与が上がっていないので、厳しくなる一方である。と、客とも会話した。私自身もそう思う。
	都市型ホテル	物価高の影響を受け、ホテルも単価アップ（レストランの料理、宿泊費、宴会料理、ドリンク）を実施して、数か月経つが客の理解は得られており、ここ数年に比べると客単価は上がり、利益率も下がらずに運営出来ている。
	都市型ホテル	相変わらず物価が高い。税金がすごく高い。日本のタバコが高いので、外国産のタバコを吸う人が増えてる。コンビニ弁当も高い。他方で夜に飲みに行く行く客が増えた。
	タクシー運転手	特定の建築業、運輸業は景気が良いと感じる。
	タクシー会社	旅行会社の予約が取れない。GW、夏休みなど、もう予約が埋まってきていて、景気が良くなっていると感じる。
	サービスエリア	飲食店の仕事の人気が低迷しており、時給を上げててもなかなかスタッフが集まらない。
	設計事務所	人口減少がさらに進むと、住宅業界はダメになる。
住宅販売会社	茨城県でもインバウンドが増えている実感がある。	
企業	農業関係者	休日における各種店舗巡回（家電・日用雑貨品・趣向品・食品など）において感じたことは、自分は買控え意識が強く、高額な物は見るだけであるが、中には高額商品を躊躇なく購入するケースも一部確認された。景気のいい人は、どれくらいいるものか。
	農業関係者	相変わらず資材の高騰、また燃料費の高騰等の要因から依然として支出に慎重になっている。
	製造業（飲料）	バイパスが開通したり、これからTXの延伸が予定されていることから、人の流れが活発になるのではないかと期待する。
	製造業（印刷・同関連業）	県南地区では、人口の増加する地域も点在し大規模な宅地開発や、マンションの建設を目にする機会も少なくないが、県全体としては人口減少や出生率の低下は、今後ますます大きな問題となってくると思う。
	製造業（窯業・土石製品）	普段、清涼飲料水の自販機は使用しないのだが、久しぶりに値段をみて、あまりの値上がりに驚いた。
製造業（非鉄金属）	輸出をメインとした自動車メーカーは潤っているが、下請け業者への還元は低レベルと言わざるを得ない。そのため、2次・3次への悪影響が出てしまい景気を左右すると思われる。	

企業	運輸業（倉庫業）	貯蓄するより資産運用することを推奨されている現状で、株価や不動産価値の上昇がすすんでいるのではないかと思われるが、将来、少子化が進んでいく中で、今より国内経済が発展することは厳しいと思われる。また、物価の上昇に賃金が追いついていない状況で、家計が苦しい人もいと聞く。
	金融業	コロナ対策であるゼロゼロ融資（無利子・無担保での融資）の利子補給終了のタイミングに合わせ、新たな資金調達のための借換融資を申込する企業が増え、設備投資等に積極的に取り組む傾向も見られた。
	不動産業	土地・建物に関して、県南エリアで需給バランスが取れていない（需要＞供給）エリアが多く見受けられる。土地があれば人口を増やせるチャンスではあるので、行政にも区画整理や要件緩和で協力して欲しい。但し、今から動いたとして仕上がり時点での需要予測は難しい。
雇用	求人広告	日経平均が過去最高値だが、茨城県内での恩恵はあまり感じられない。
	求人開拓員	最近日経平均が最高値4万円になっているが実感がない。昨年食品の値上げが席巻したが、4月からもまた値上げのニュースが多くみられる。

(5) 県西地域

分野	業種・職種	コメント
家計	商店街代表者	地元の商品券を、学生関係以外で使用される客が前年度より増加した。御遣い物も売れてきているので、少しは良くなってきていると思う。
	商店街代表者	3月初旬に旅行をした。平日だったが、グリーン車は満席。若い年齢層が多く見られた。昔の利用客層とちがうなと感じた。
	コンビニエンスストア	コンビニエンスストアに関しては、セールやキャンペーンを行っているお得な商品が、以前より顕著に売れるようになってきていると感じられる。恒常的なインフレにより、客の懐事情も厳しくなっているのではないかと思われ、その変化に対し、価格が手ごろな商品の拡充であったり、販促内容として直引きセールを増やしている。今後の景気改善に向け、1日でも早い賃上げが期待される。
	家電販売店	自分含め、従業員や客からも話が出てきているが、貯蓄型が増えてきている。安価な商品、特売品などが多く売れていることから、守りの景気にどんどん進んでいる。
	小売業（酒類）	大企業は値上げに対応できるだけのベースアップができるのだろうが、中小企業はそこまでの対応ができる企業ばかりではない。この先の値上げで、購買意欲がどう変化していくのかまったく予想ができない。飲食店を相手に商売が成り立っているうちのような店は不安しかない。ある意味コロナ禍の頃の自粛ムードの時より厳しさを感じる。株価史上最高値とかいってもまったくピンとこない。
	製茶販売	コロナ禍も大分落ち着いては来ているが、出歩いている人を見ない。遊びが少なくなっているのではないだろうか。遊ぶという心の余裕もなくなっているようだ。
	レストラン	人の動きが活発になっている。
	日本料理店	地方では、都心部や観光地のようなインバウンド効果が見受けられない。
	食堂	とにかく今は、みんな我慢の生活している。
	和食レストラン	マスクをしている人が減った。
	観光型ホテル	長い間外出を控えていた人達がそれに慣れてしまい、家の周りになることが普通になってきて、以前のように買物をしなくなっているようだ。いろいろな要因で不景気な気分になってしまい、金を大切にしまっておくことにしているのではないかと思われる。金の流れが少なくなっているようだ。それでもなかなか生活は楽にはなっていないと思う。
	商店街代表者	業務上においては、茨城県内の事業所や観光地がTVで紹介されるケースが増加したことにより、県外からの問合せ等が増加した。また、実際に県外からの来客者が増加している話を聞くことが増えている。
	クリーニング店	株価の上昇は、一般市民には大きな影響はないとの声を多く聞く。
設計事務所	建設・運送関連のコストアップの影響が心配である。プラスかマイナスかどっちに振られるか分からない。	
企業	製造業（窯業・土石製品）	株高など、経済の指標が上昇していることに好感を持つ人が多いので、景気上向きへの期待感が高いと感じている。
	製造業（化学工業）	物価高騰がまだまだ続いており、消費行動が抑えられているように感じるが、一方で株高や新NISAなどへの投資をしている方は恩恵を受けているとの話も聞いており、消費の二極化が進展しているように感じる。
	金融業	県西地区に於いては、圏央道の2車線化工事が進行しており、物流倉庫の建築が盛んである。
雇用	求人広告	企業の採用担当者や総務、社長と話していると、「自社の認知度を上げること」に予算をつける動きをしている企業が増えてきたように感じる。
	人材派遣業	SNSやテレビの報道等で、大手企業の賃上げを過熱気味に取り上げている関係で、採用コストが上がってしまい悩んでいる中小企業の声をよく聞く。費用を捻出できないため、賃上げと併せて人員削減に踏み切っている下請け業者もある。生産量や物量は、コロナ禍前に戻っていないという声の方が多いが、採用コストだけ上がっているため、景気としては後退していると感じる。
	学校就業関係者	近隣の「高等学校が閉校」「5つの小学校が1つに」なる。これらのことから、少子化を感じる。